

市民の生活等に関する調査
(ひきこもりに関する実態調査)
報 告 書

令和 8 年 8 月

札幌市

目 次

1 調査報告書

(1) 無作為抽出アンケート調査	1
① 調査の概要	2
ア)調査目的	2
イ)調査項目	2
ウ)調査対象	2
エ)調査時期	2
オ)調査方法	2
カ)回収結果	2
② 広義のひきこもり群の定義	3
ア)広義のひきこもり群	3
イ)一般群	4
ウ)世帯内のひきこもり状態の方について	7
③ 調査の結果	8
(2) 当事者及び家族向けアンケート調査	51
① 調査の概要	52
ア)調査目的	52
イ)調査項目	52
ウ)調査対象	52
エ)調査時期	52
オ)調査方法	52
カ)回収結果	52
② ひきこもり状態(現在ひきこもり群・過去ひきこもり群)の定義	53
③ 調査の結果	54

(3) 関係機関向けアンケート調査	85
① 調査の概要	86
ア)調査目的	86
イ)調査項目	86
ウ)調査対象	86
エ)調査時期	86
オ)調査方法	86
カ)回収結果	86
② 調査の結果	87
(4) 8050 問題に関するアンケート調査	97
① 調査の概要	98
ア)調査目的	98
イ)調査項目	98
ウ)調査対象	98
エ)調査時期	98
オ)調査方法	98
カ)回収結果	98
② ひきこもり類型(いる(子:8050)群・いる(子以外)群・いない群)の定義	99
ア)いる(子:8050)群	99
イ)いる(子以外)群	99
ウ)いない群	100
③ 調査の結果	101

1 調査報告書

(1) 無作為抽出アンケート調査

1-(1) 調査報告書 無作為抽出アンケート調査

① 調査の概要

ア)調査目的

本市では、ひきこもりの実態把握及び当事者の状態や意向等に即した、多面的・包括的な支援対策の検討に資する基礎資料の作成を目的として、平成30年度に「市民の生活等に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」(以下、「前回調査」という。)を実施した。

本調査は、ひきこもり当事者及び家族の多様性を踏まえて、適切な相談・支援に繋げるための対策を検討する基礎資料の作成を目的として実施する。

イ)調査項目

- a. 基本属性について(Q1～Q6)
- b. 就労に関すること(Q7～Q8)
- c. 普段の活動に関すること(Q9～12)
- d. 本人のひきこもりの状態に関すること(Q13)
- e. 世帯内のひきこもりの状態の方に関すること(Q14～15)
- f. 相談経験に関すること(Q16～17)
- g. ひきこもり状態への認識に関すること(Q18)
- h. ひきこもり状態になったときの相談・支援に関すること(Q19～22)

ウ)調査対象

- a. 母集団 札幌市在住の15歳以上64歳以下の者
- b. 標本数 4,000人
- c. 抽出方法 等間隔無作為抽出法

エ)調査時期

令和7年11月17日～12月19日

オ)調査方法

郵送配布・郵送回収又はWEB回答

カ)回収結果

回収数(率) 1,505人(37.6%)
【郵送 699人(17.5%)、Web回答 806人(20.2%)】

② 広義のひきこもり群の定義

ア)広義のひきこもり群

広義のひきこもり群については、前回調査及び令和4年度に内閣府が実施した「こども・若者の意識に関する調査」の定義を基に、以下の定義を用いた。

本調査における広義のひきこもり群は、

「Q12 ふだんどのくらい外出しますか。」について、下記の5～8に当てはまる者

5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する
6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
7. 自室からは出るが、家からは出ない
8. 自室からほとんど出ない

であって、

「Q13-3 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、

- ① 「身体的な病気・ケガ」を選択した者
- ② 「精神的な病気(病名)」を選択し、病名に統合失調症を記入した者
- ③ 「妊娠した」を選択した者
- ④ 「在宅ワークを始めた」を選択した者
- ⑤ 「その他()」を選択し、()に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

「Q7 現在の主な就労・就学等の状況についてお答えください。」で、

- ① 「勤めている(正社員)」を選択した者
- ② 「勤めている(契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト【学生のアルバイトは除く】)」を選択した者
- ③ 「自営業・自由業」を選択した者
- ④ 「専業主婦・主夫又は家事手伝い」を選択した者
- ⑤ 「働いている(その他)」を選択した者

「Q9 ふだんご自宅にいますときによくしていることすべてに○をつけてください。」で、

- ① 「仕事をする」を選択した者
- ② 「家事・育児をする」を選択した者

を除いた人数。

なお、

「Q13-1 現在の状態になってどのくらい経ちますか。」について、6 か月以上と回答した者

の設問について、前回調査では「6か月未満」を選択した者も除外しているが、令和7年1月に厚労省が発行した「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」により、ひきこもり支援の対象者は、「その状態にある期間は問わない」こととなったため、期間に関する除外要件は用いていない。

イ)一般群

全回答者から、「広義のひきこもり群」に該当する者を除いた者を「一般群」とする。

令和7年10月1日現在の札幌市「住民基本台帳」による人口から、年代別(15歳～39歳・40歳～59歳・60歳～64歳)における広義のひきこもりの推計数は以下のとおり。

a. 15歳～39歳

札幌市「住民基本台帳」15歳～39歳人口： 496,172 人
有効回収数： 519 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	13	2.50	12,428
一般群	506	97.50	483,744
前回条件での広義のひきこもり群 (6カ月未満を除く)	10	1.93	9,560

※表中の「有効回答数に占める割合」は、小数点第3位以下を四捨五入した数値であるため、当該数値を用いた推計数の算出では、表中の「札幌市全体の推計数」の数値にならない場合がある。以下同じ。

【参考. 前回調査(平成31年3月)による推計数】

札幌市「住民基本台帳」15歳～39歳人口： 529,793 人
有効回収数： 1,444 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	18	1.25	6,604

b. 40歳～59歳

札幌市「住民基本台帳」40歳～59歳人口： 564,644 人
有効回収数： 772 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	9	1.17	6,583
一般群	763	98.83	558,061
前回条件での広義のひきこもり群 (6カ月未満を除く)	8	1.04	5,851

【参考. 前回調査(平成31年3月)による推計数】

札幌市「住民基本台帳」40歳～59歳人口: 560,775 人

有効回収数: 1,932 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	28	1.45	8,128

c. 60歳～64歳

札幌市「住民基本台帳」60歳～64歳人口: 130,056 人

有効回収数: 212 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	6	2.83	3,681
一般群	206	97.17	126,375
前回条件での広義のひきこもり群 (6カ月未満を除く)	5	2.36	3,067

【参考. 前回調査(平成31年3月)による推計数】

札幌市「住民基本台帳」60歳～64歳人口: 124,605 人

有効回収数: 514 人

	該当人数 (人)	有効回収数に 占める割合(%)	札幌市全体の 推計数(人)
広義のひきこもり群	21	4.09	5,091

ウ)世帯内のひきこもり状態の方について

本調査は、本人の回答を前記の定義に基づいて「広義のひきこもり群」と「一般群」に分類しているため、自身が「広義のひきこもり群」の定義に該当しているかについて、必ずしも回答者本人の意識と一致しない。

同じ世帯内におけるひきこもり状態の方に関する調査項目については、「広義のひきこもり群」の定義に基づいた分類は行わず、本人自身の意識に基づいた整理を行った。

具体的には、Q14において、本人自身の意識に基づいた「世帯内のひきこもりの状態の方の有無」についての質問し、回答によってそれぞれ以下の調査を行った。

世帯内にひきこもり状態の方がいると回答した者

【対象者】

「Q14 あなたが同居している世帯の中に、「仕事や学校などに行かず、家族以外の人とほとんど交流しない状態に当てはまる方」が、現在いますか。」で、

- ① 「あなた以外の家族に当てはまる人がいる」を選択した者
- ② 「あなた自身のみ当てはまる」を選択した者

【調査内容】

- ・①の人に関するひきこもりの状態について(Q15)
- ・①と②の人に関する相談経験に関して(Q16～17)

世帯内にひきこもり状態の方がいないと回答した者

【対象者】

「Q14 あなたが同居している世帯の中に、「仕事や学校などに行かず、家族以外の人とほとんど交流しない状態に当てはまる方」が、現在いますか。」で、

- ③ 「世帯に当てはまる人はいない」を選択した者

【調査内容】

- ・ひきこもり状態への認識に関すること(Q18)

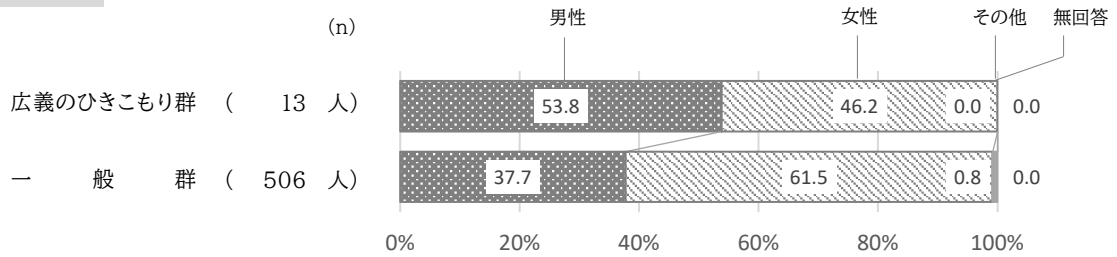
③ 調査の結果

※回答者全員がすべての質問に回答しているわけではないため、全体の数と内訳の合計が一致しない場合があります。

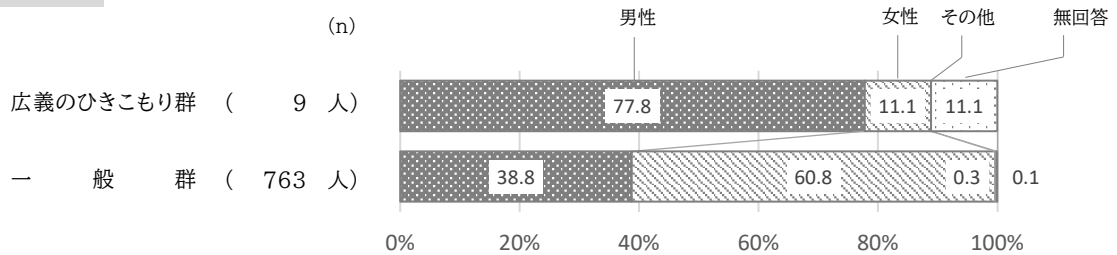
a. 基本属性について

Q1 あなたの性別をお答えください。(○はひとつだけ)

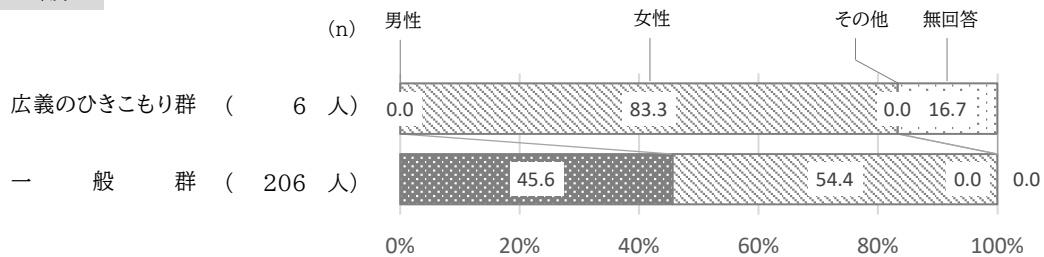
15歳～39歳



40歳～59歳

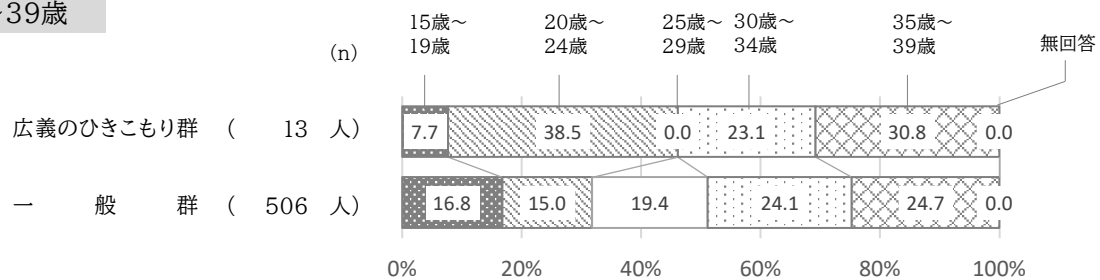


60歳～64歳

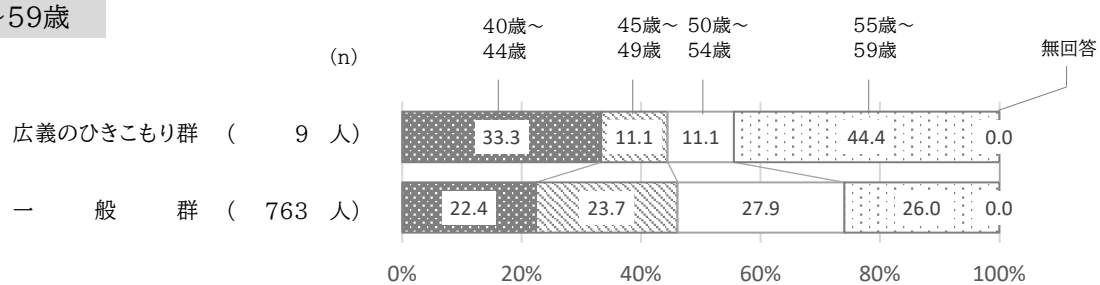


Q2 あなたの年齢(令和7年9月24日現在)をお答えください。(〇はひとつだけ)

15歳～39歳



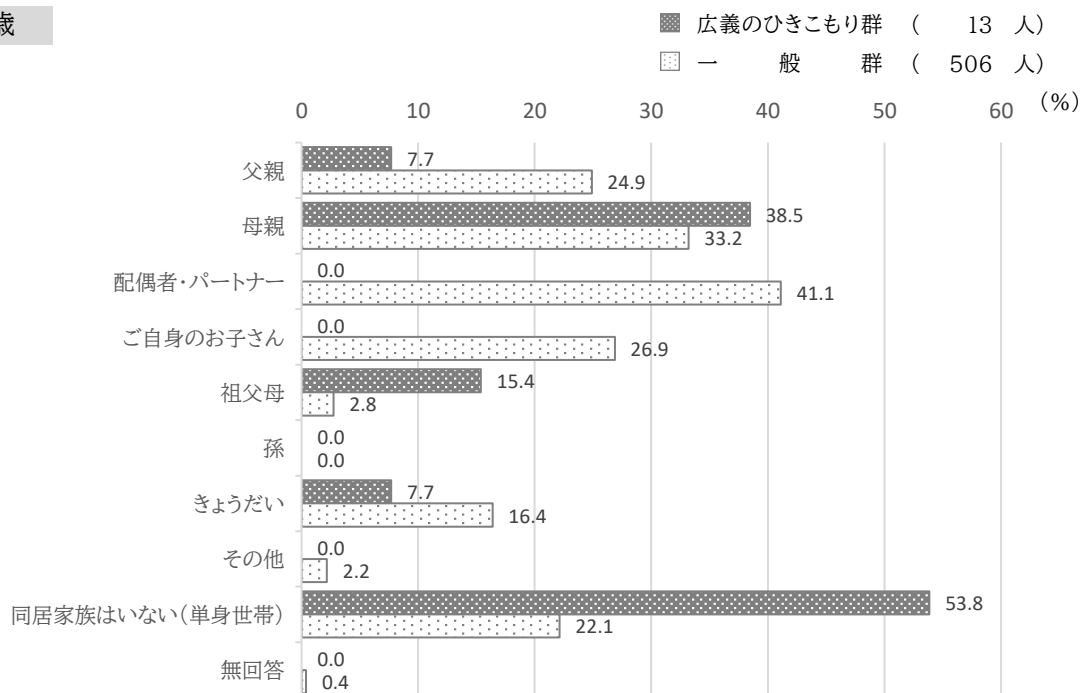
40歳～59歳



※60歳～64歳は、回答選択肢が「60歳～64歳」の1つとなるため省略

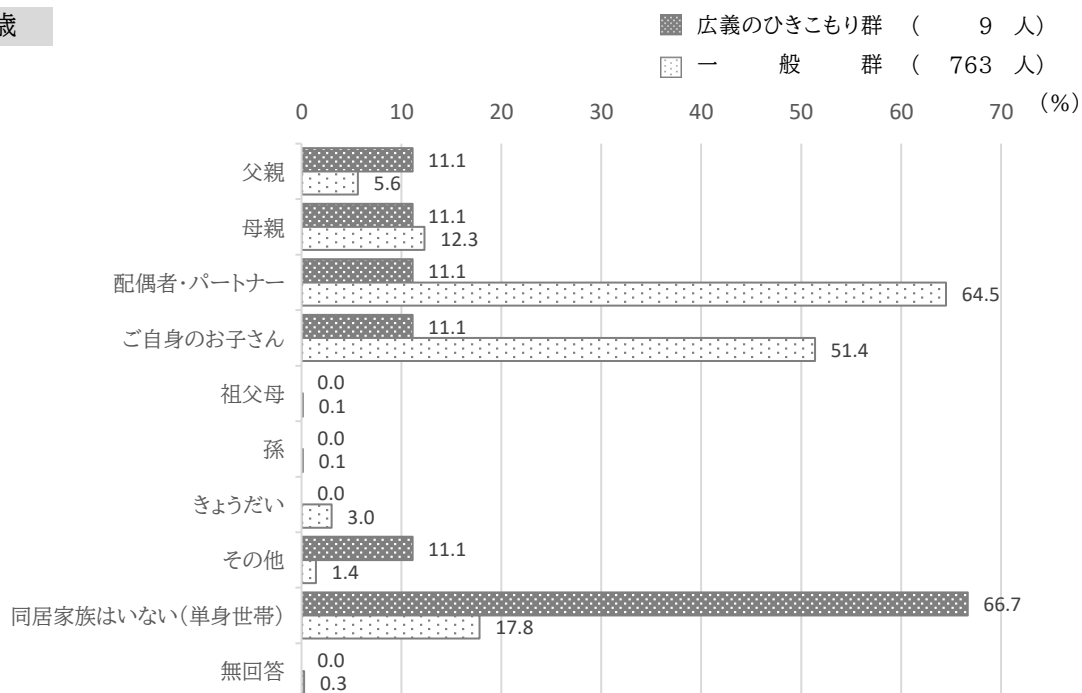
Q3 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。(○はいくつでも)

15歳～39歳



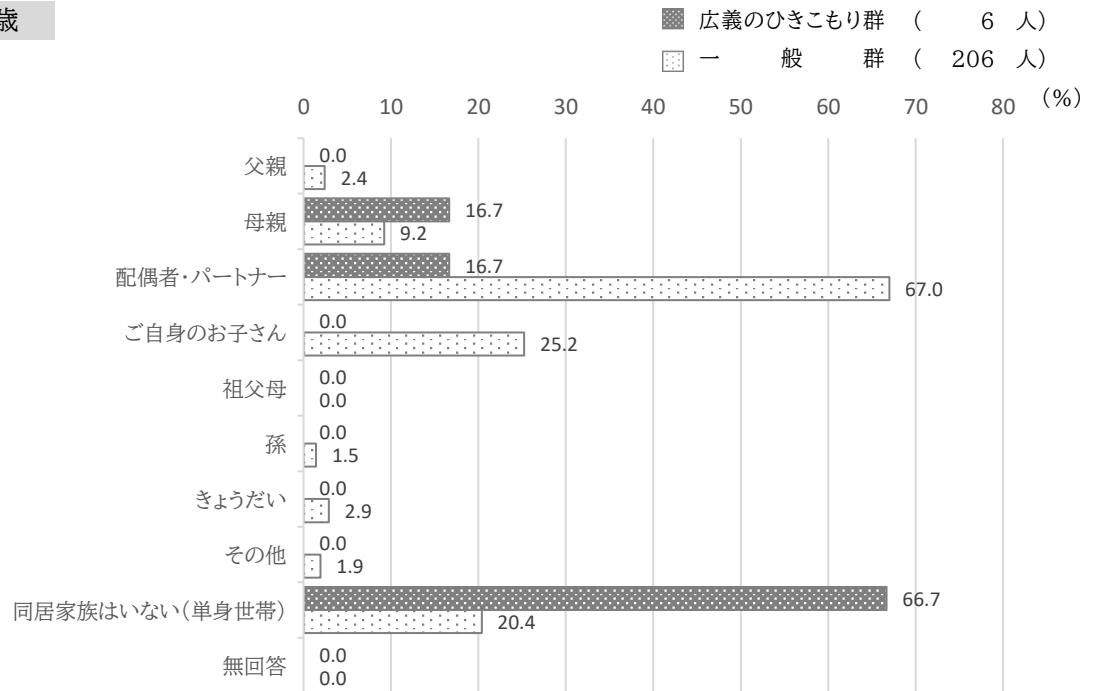
同居家族は、広義のひきこもり群では、最も多い「同居家族はいない(単身世帯)」が53.8%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」及び「ご自身のお子さん」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



同居家族は、広義のひきこもり群では、最も多い「同居家族はいない(単身世帯)」が66.7%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」及び「ご自身のお子さん」が11.1%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

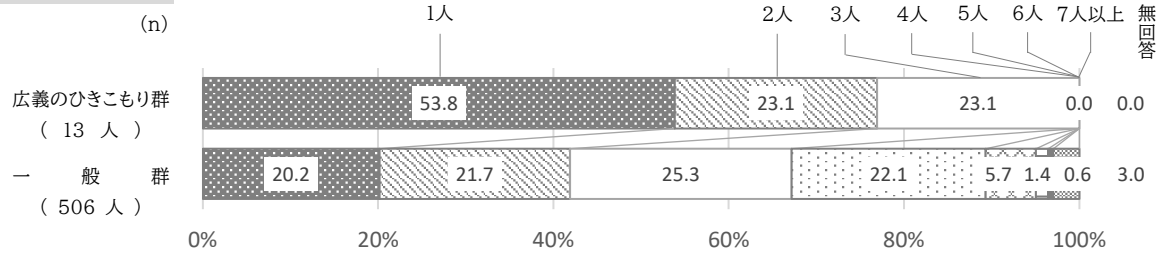
60歳～64歳



同居家族は、広義のひきこもり群では、最も多い「同居家族はいない(単身世帯)」が66.7%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」が16.7%、「ご自身のお子さん」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

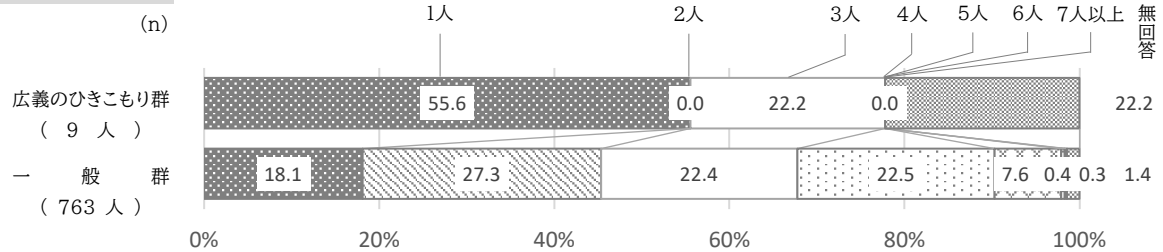
Q4 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。(数字で具体的に)

15歳～39歳



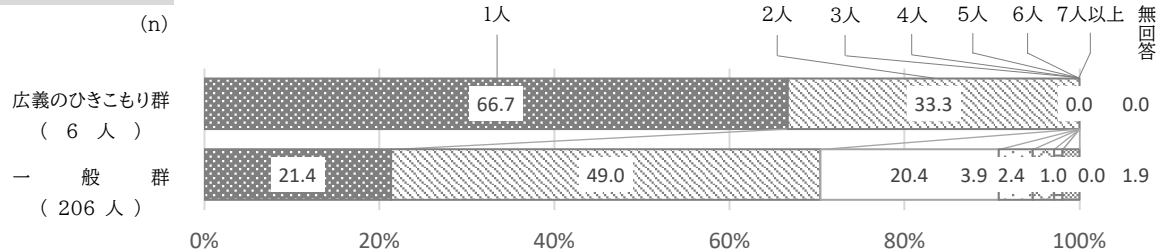
同居人数は、広義のひきこもり群では、最も多い「1人」が53.8%で一般群に比べて多く、「4人」以上は0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



同居人数は、広義のひきこもり群では、最も多い「1人」が55.6%で一般群に比べて多く、「2人」及び「4人」以上は0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

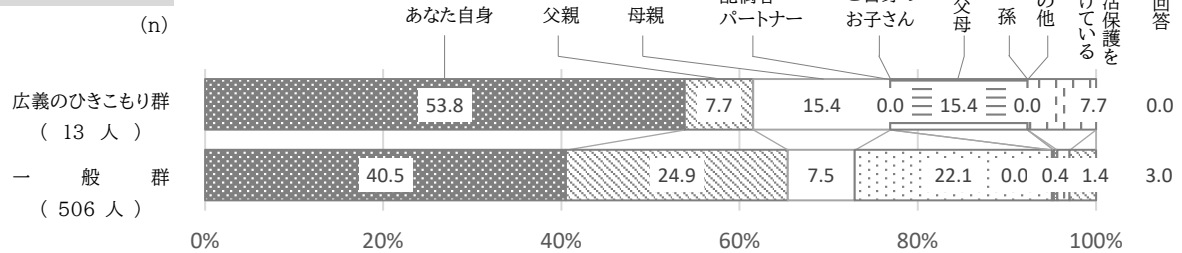
60歳～64歳



同居人数は、広義のひきこもり群では、最も多い「1人」が66.7%で一般群に比べて多く、「3人」以上は0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

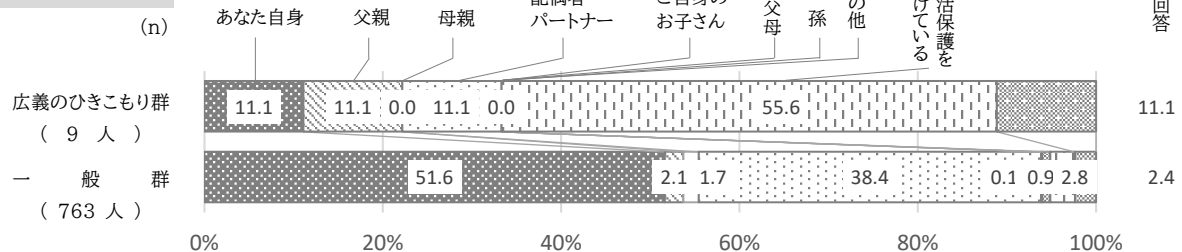
Q5 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(〇はひとつだけ)

15歳～39歳



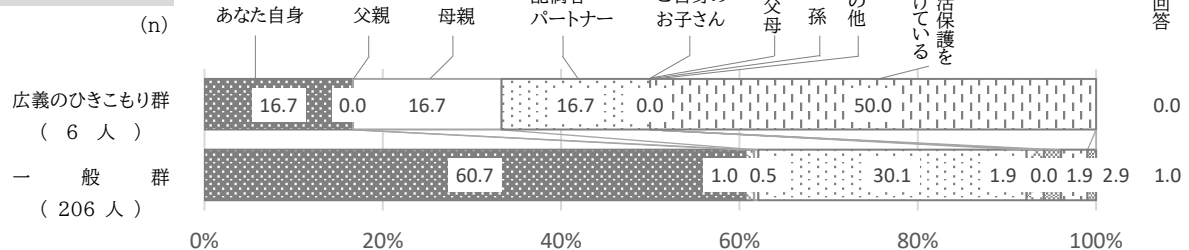
主な生計維持者については、広義のひきこもり群では、最も多い「あなた自身」が53.8%で一般群と同様に多く、「配偶者・パートナー」が0.0%、「父親」が7.7%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



主な生計維持者については、広義のひきこもり群では、最も多い「生活保護を受けている」が55.6%で一般群に比べて多く、「あなた自身」及び「配偶者・パートナー」が11.1%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

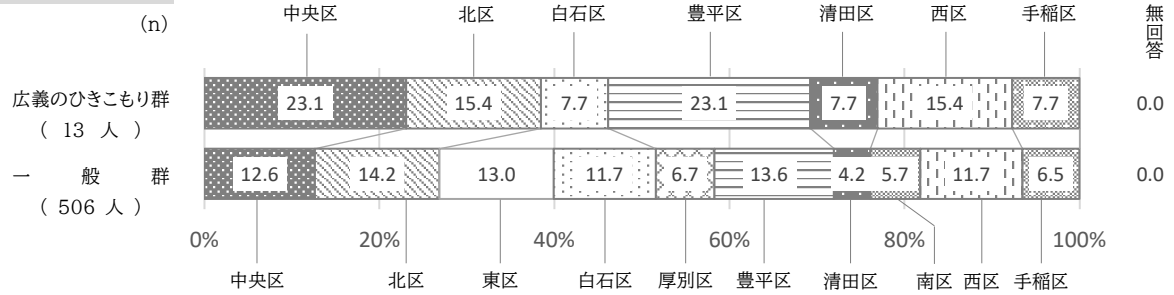
60歳～64歳



主な生計維持者については、広義のひきこもり群では、最も多い「生活保護を受けている」が50.0%、「母親」が16.7%で一般群に比べて多く、「あなた自身」及び「配偶者・パートナー」が16.7%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

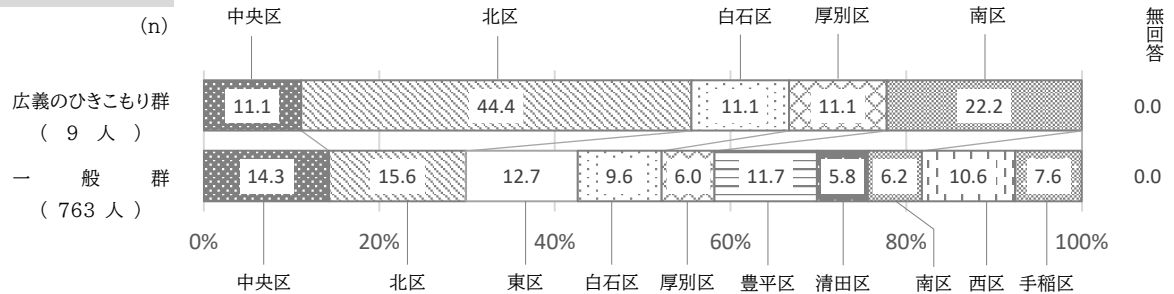
Q6 あなたがお住まいの地域に○をつけてください。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



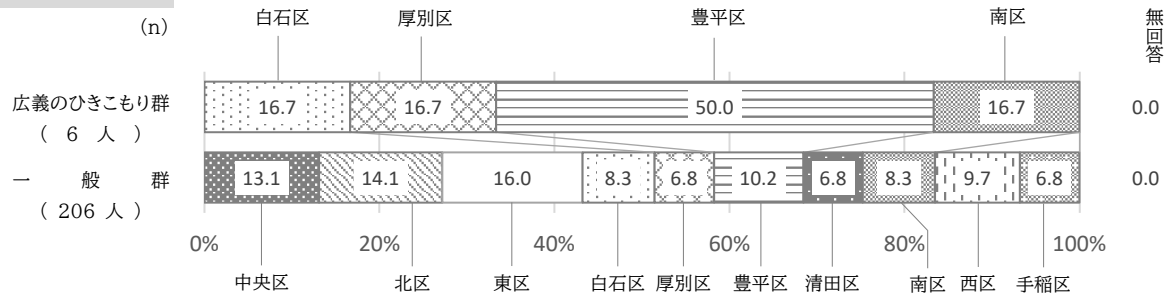
広義のひきこもり群における東区、厚別区、南区は、0人のため表示していない。

40歳～59歳



広義のひきこもり群における東区、豊平区、清田区、西区、手稲区は、0人のため表示していない。

60歳～64歳



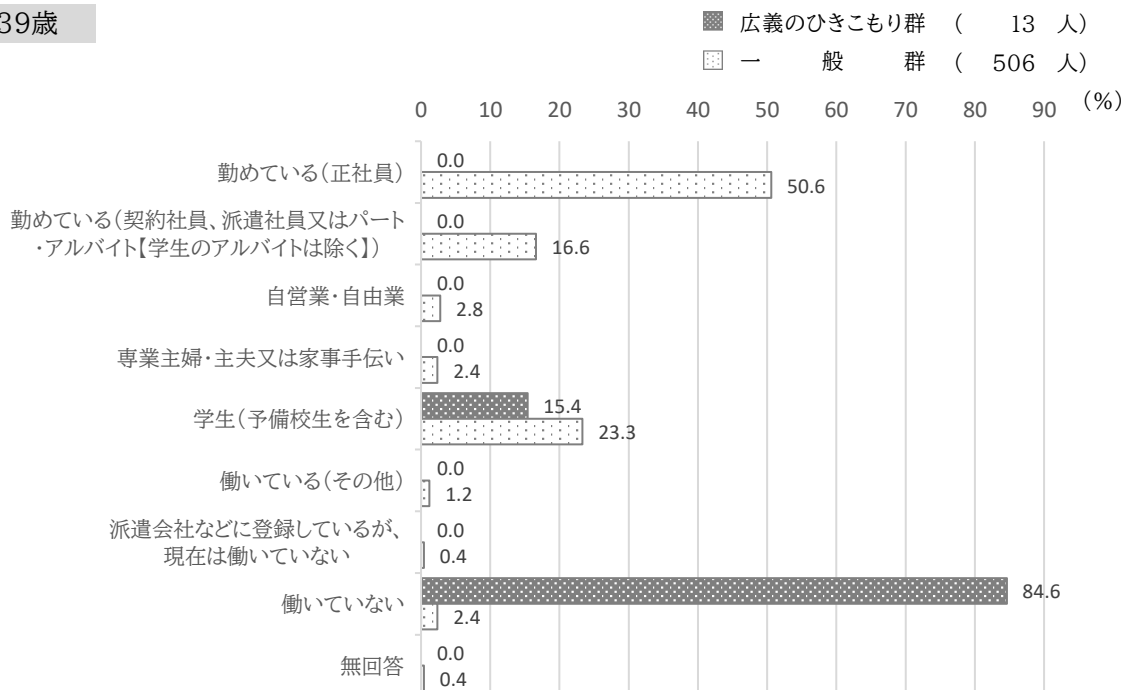
広義のひきこもり群における中央区、北区、東区、清田区、西区、手稲区は、0人のため表示していない。

b. 就労に関すること

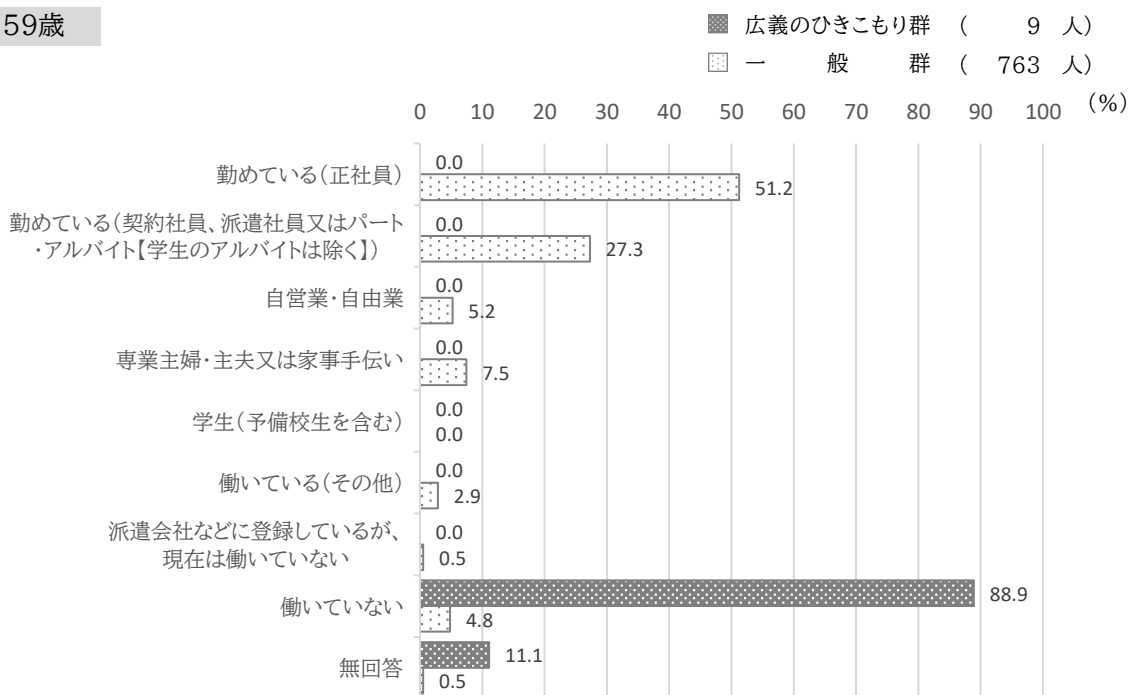
Q7 あなたの現在の主な就労・就学等の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)

※Q7の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用

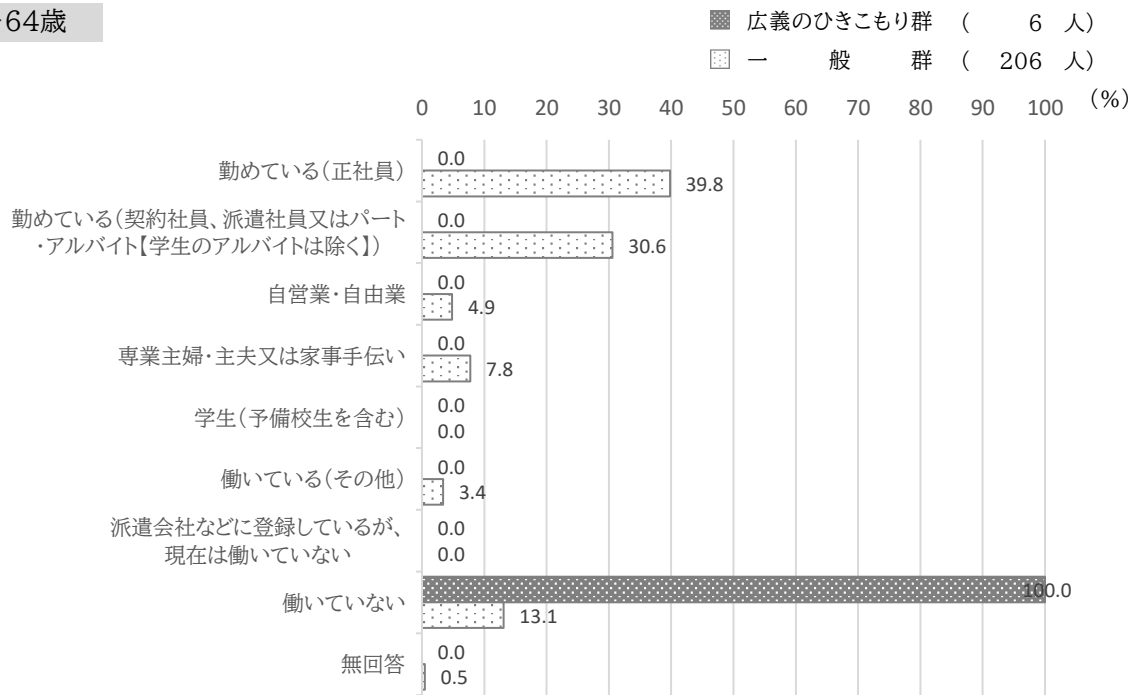
15歳～39歳



40歳～59歳



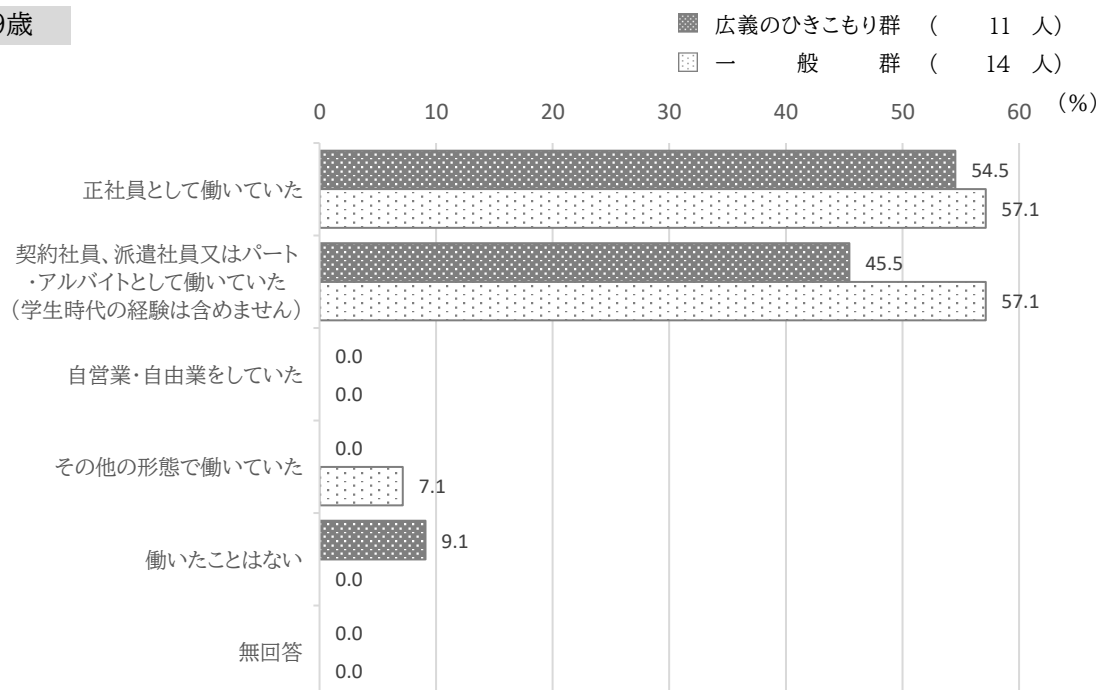
60歳～64歳



【Q7で、7～8に○をつけた方のみ回答】

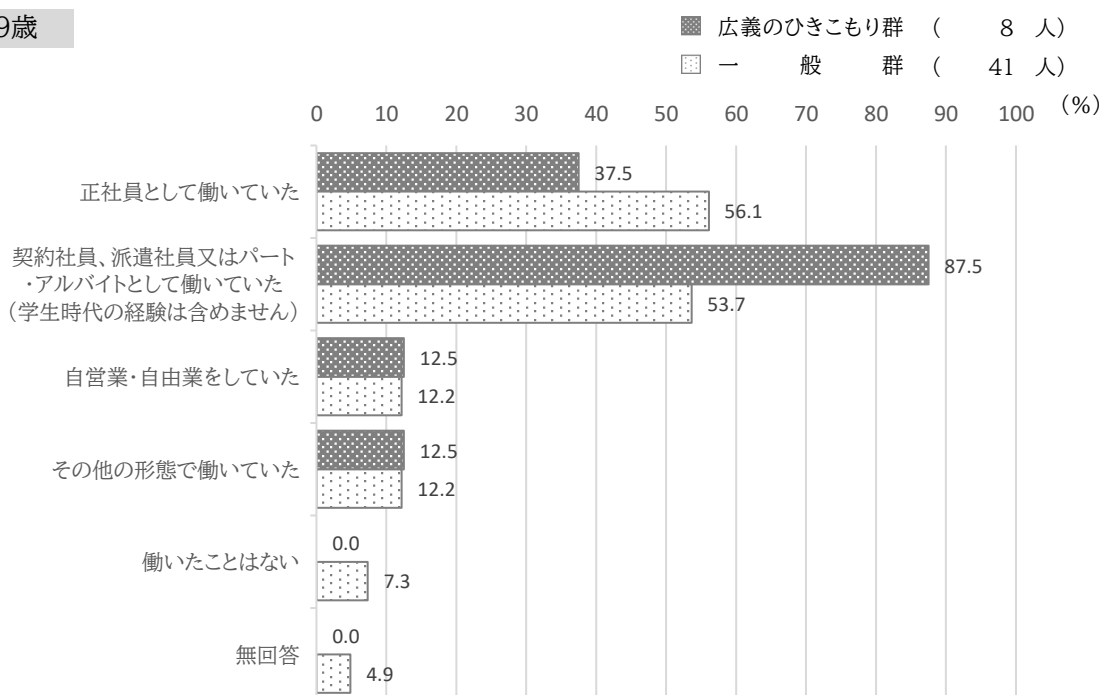
Q8-1 あなたはいままでに働いていたことはありますか。(○はいくつでも)

15歳～39歳



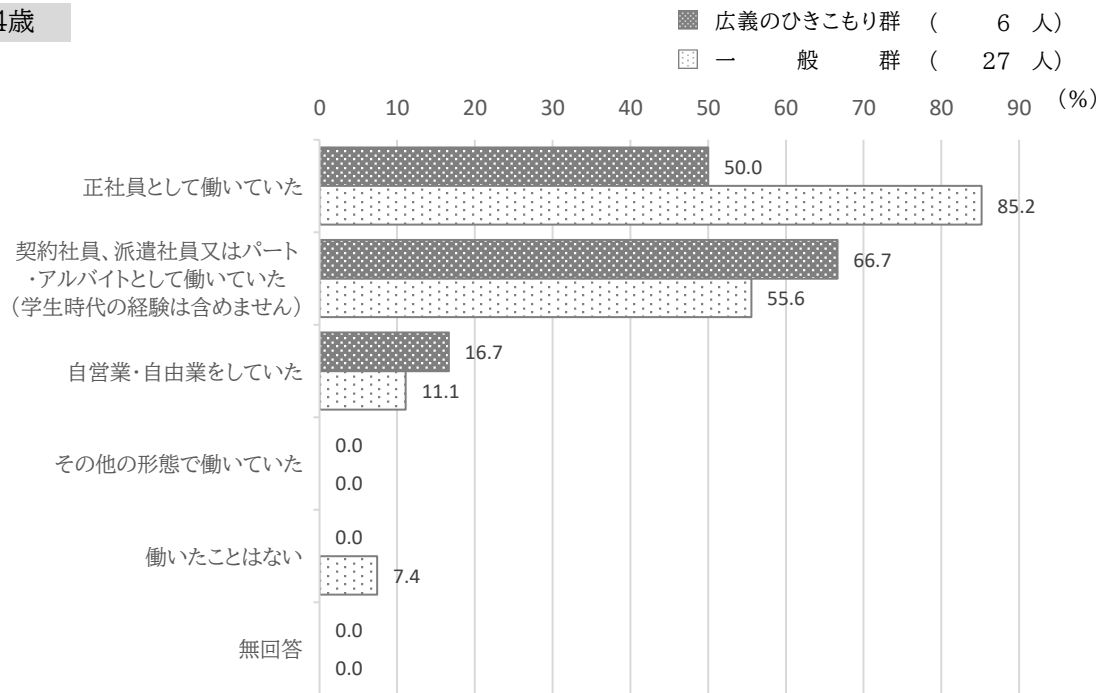
Q7で現在働いていないと回答した方のこれまでの働いた経験は、広義のひきこもり群では、最も多い「正社員として働いていた」が54.5%、ついで「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いていた」が45.5%であった。

40歳～59歳



Q7で現在働いていないと回答した方のこれまでの働いた経験は、広義のひきこもり群では、最も多い「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いていた」が87.5%で一般群に比べて多く、「正社員として働いていた」が37.5%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

60歳～64歳

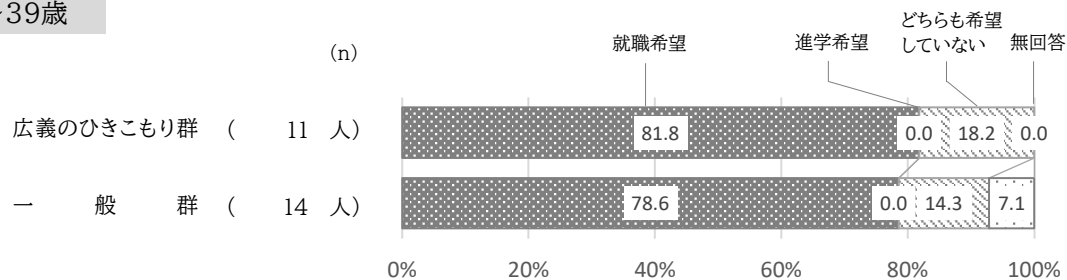


Q7で現在働いていないと回答した方のこれまでの働いた経験は、広義のひきこもり群では、最も多い「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いていた」が66.7%で、ついで「正社員として働いていた」が50.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

【Q7で、7～8に○をつけた方のみ回答】

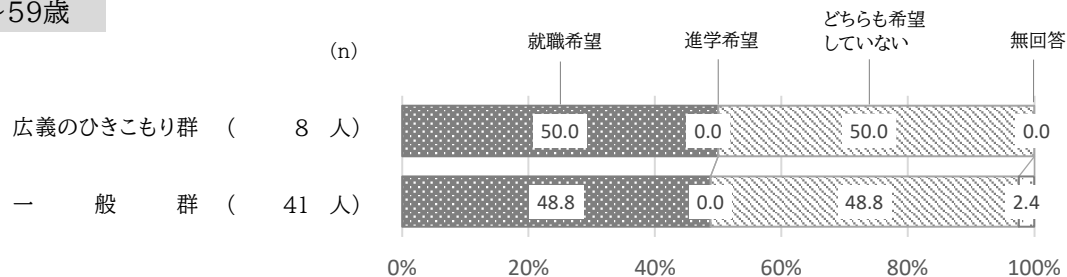
Q8-2 あなたは現在就職又は進学を希望していますか。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



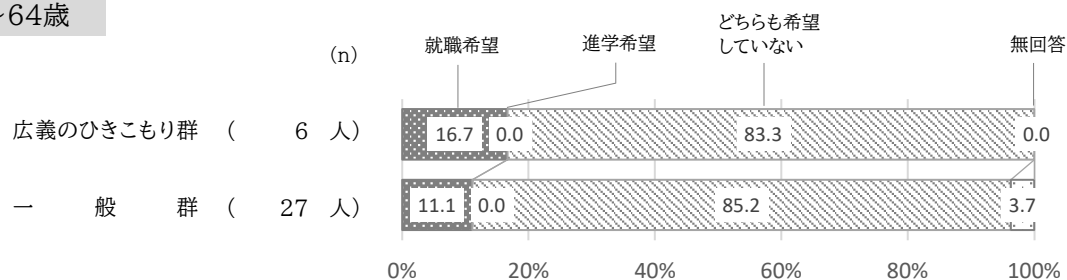
Q7で現在働いていないと回答した方の就職、又は進学意向は、広義のひきこもり群では、「就職希望」が81.8%、「どちらも希望していない」が18.2%であった。

40歳～59歳



Q7で現在働いていないと回答した方の就職、又は進学意向は、広義のひきこもり群では、「就職希望」及び「どちらも希望していない」が50.0%であった。

60歳～64歳

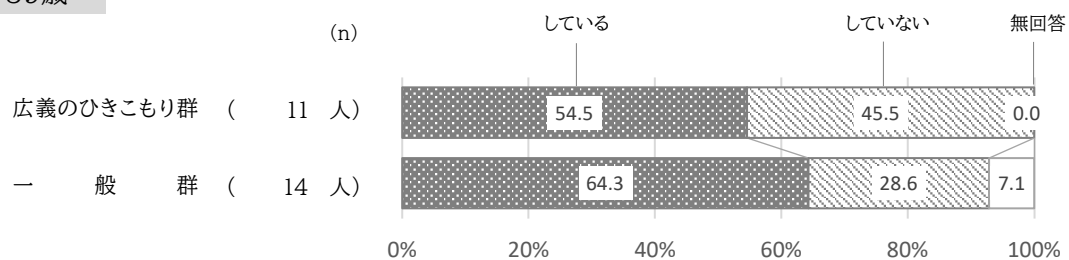


Q7で現在働いていないと回答した方の就職、又は進学意向は、広義のひきこもり群では、「就職希望」が16.7%、「どちらも希望していない」が83.3%であった。

【Q7で、7～8に○をつけた方のみ回答】

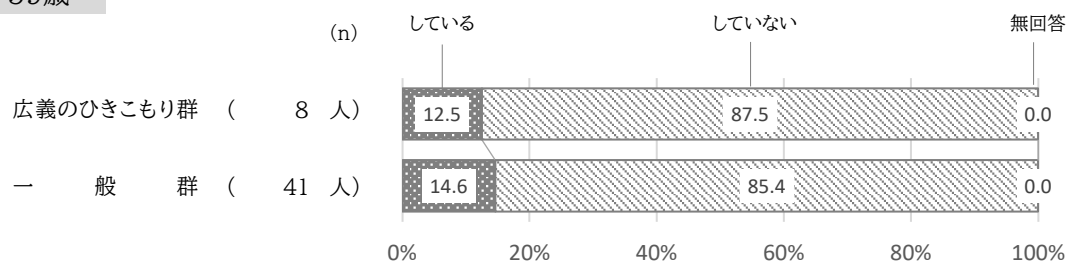
Q8-3 あなたは現在就職活動をしていますか。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



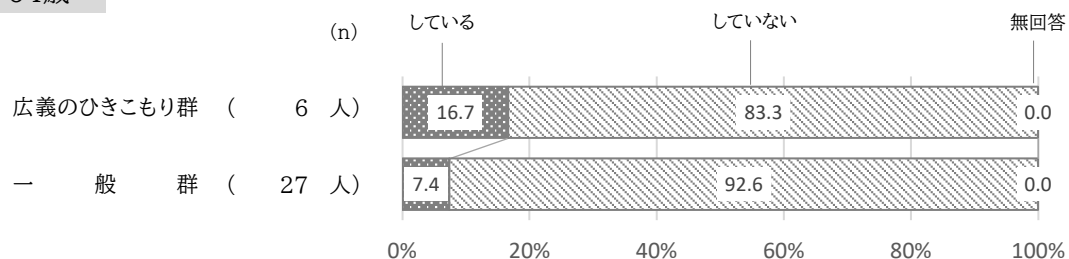
Q7で現在働いていないと回答した方の就職活動状況は、広義のひきこもり群では、「している」が54.5%、「していない」が45.5%であった。

40歳～59歳



Q7で現在働いていないと回答した方の就職活動状況は、広義のひきこもり群では、「している」が12.5%、「していない」が87.5%であった。

60歳～64歳



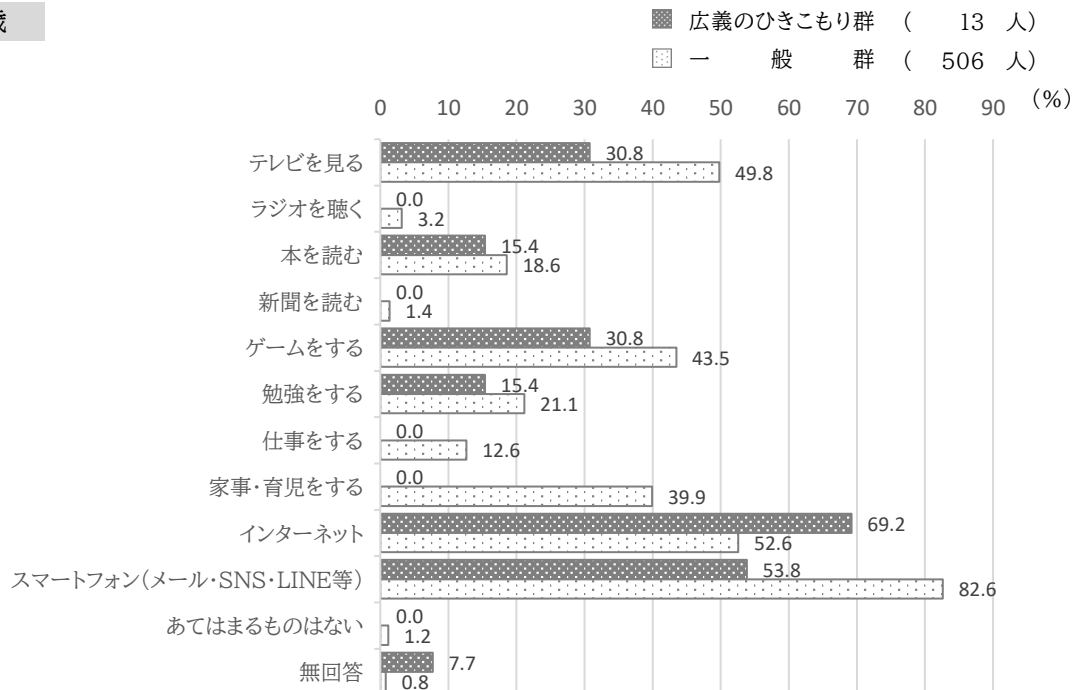
Q7で現在働いていないと回答した方の就職活動状況は、広義のひきこもり群では、「している」が16.7%、「していない」が83.3%であった。

c. 普段の活動に関すること

Q9 あなたがふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

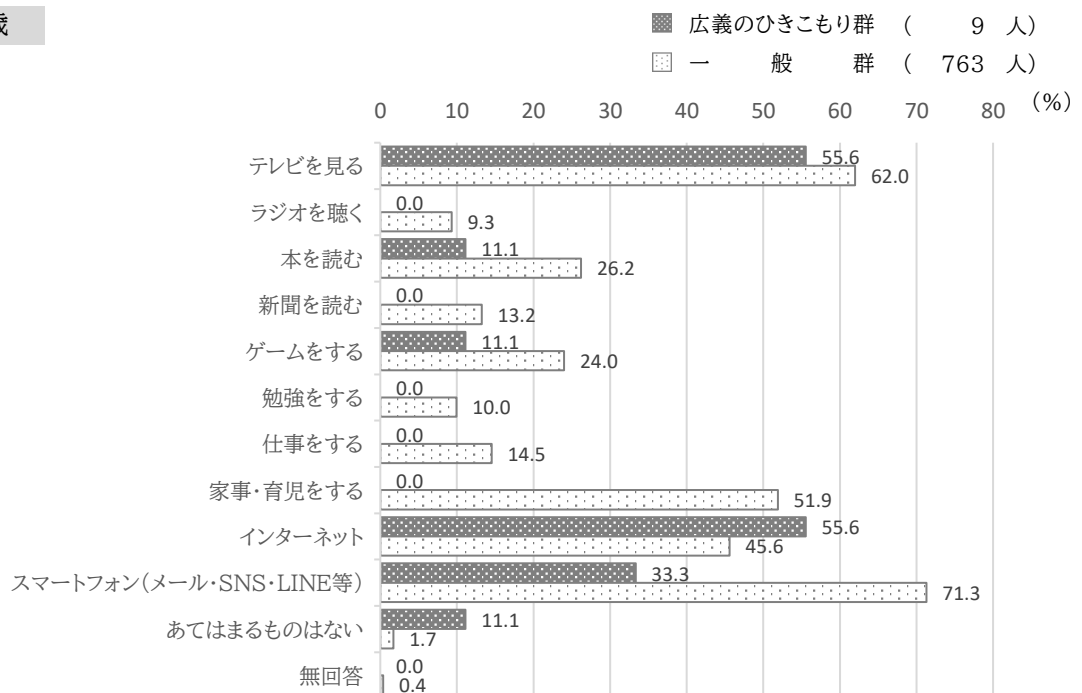
※Q9の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用

15歳～39歳



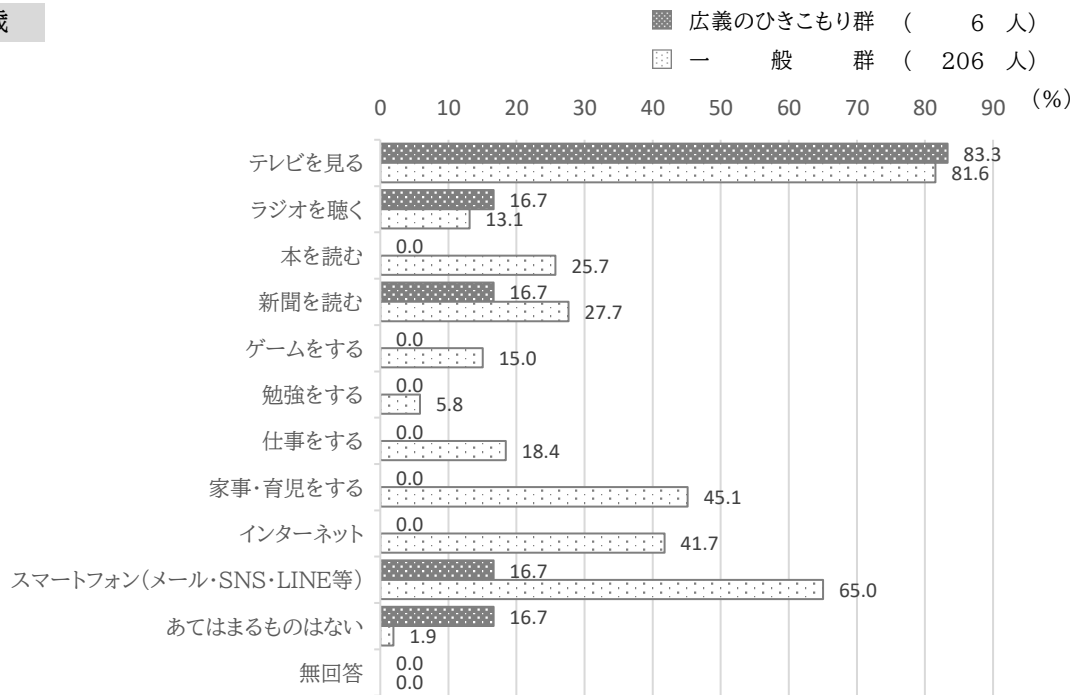
ふだん自宅にいる時によくしていることについては、広義のひきこもり群では、最も多い「インターネット」が69.2%で一般群に比べて多く、「テレビを見る」が30.8%、「スマートフォン(メール・SNS・LINE等)」が53.8%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



ふだん自宅にいる時によくしていることについては、広義のひきこもり群では、「テレビを見る」及び「インターネット」が55.6%で最も多かった。「本を読む」及び「ゲームをする」が11.1%、「スマートフォン(メール・SNS・LINE等)」が33.3%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

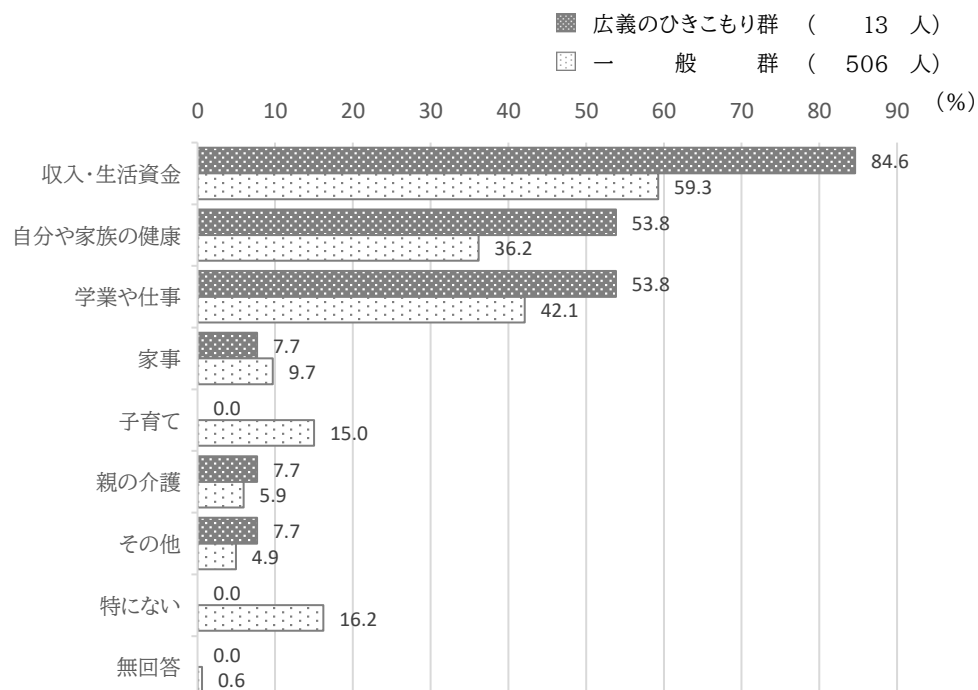
60歳～64歳



ふだん自宅にいる時によくしていることについては、広義のひきこもり群では、「テレビを見る」が83.3%で最も多かった。「本を読む」及び「インターネット」が0.0%、「スマートフォン(メール・SNS・LINE等)」が16.7%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

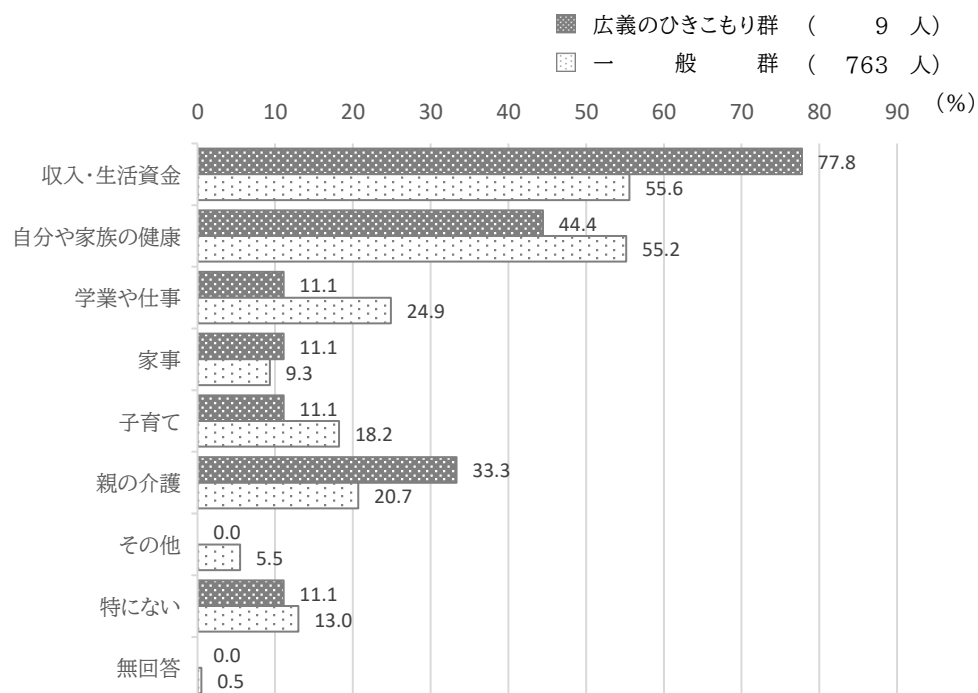
Q10 あなたが現在、日常生活において不安や悩みに思っている事柄は何ですか。(〇はいくつでも)

15歳～39歳



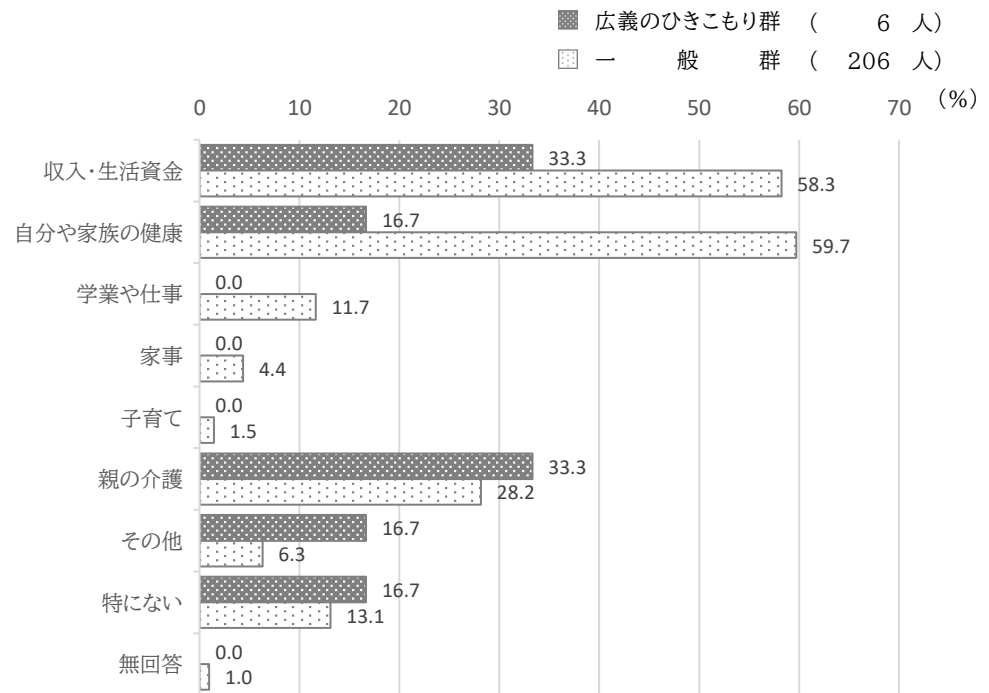
日常生活において不安や悩みに思っている事柄については、広義のひきこもり群では、「収入・生活資金」が84.6%、「自分や家族の健康」及び「学業や仕事」が53.8%で一般群に比べて多く、「子育て」及び「特にない」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



日常生活において不安や悩みに思っている事柄については、広義のひきこもり群では、「収入・生活資金」が77.8%、「親の介護」が33.3%で一般群に比べて多く、「学業や仕事」及び「子育て」が11.1%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

60歳～64歳



日常生活において不安や悩みに思っている事柄については、広義のひきこもり群では、「収入・生活資金」が33.3%、「自分や家族の健康」が16.7%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

その他の内容

年代	内容
すべて	将来・老後のこと(30件) 家族のこと(9件) 住宅・住民のこと(4件) 人間関係・異性関係のこと(7件) 介護のこと(3件) 政治・物価のこと(7件) 病気・障害のこと(6件) 動物のこと(2件)

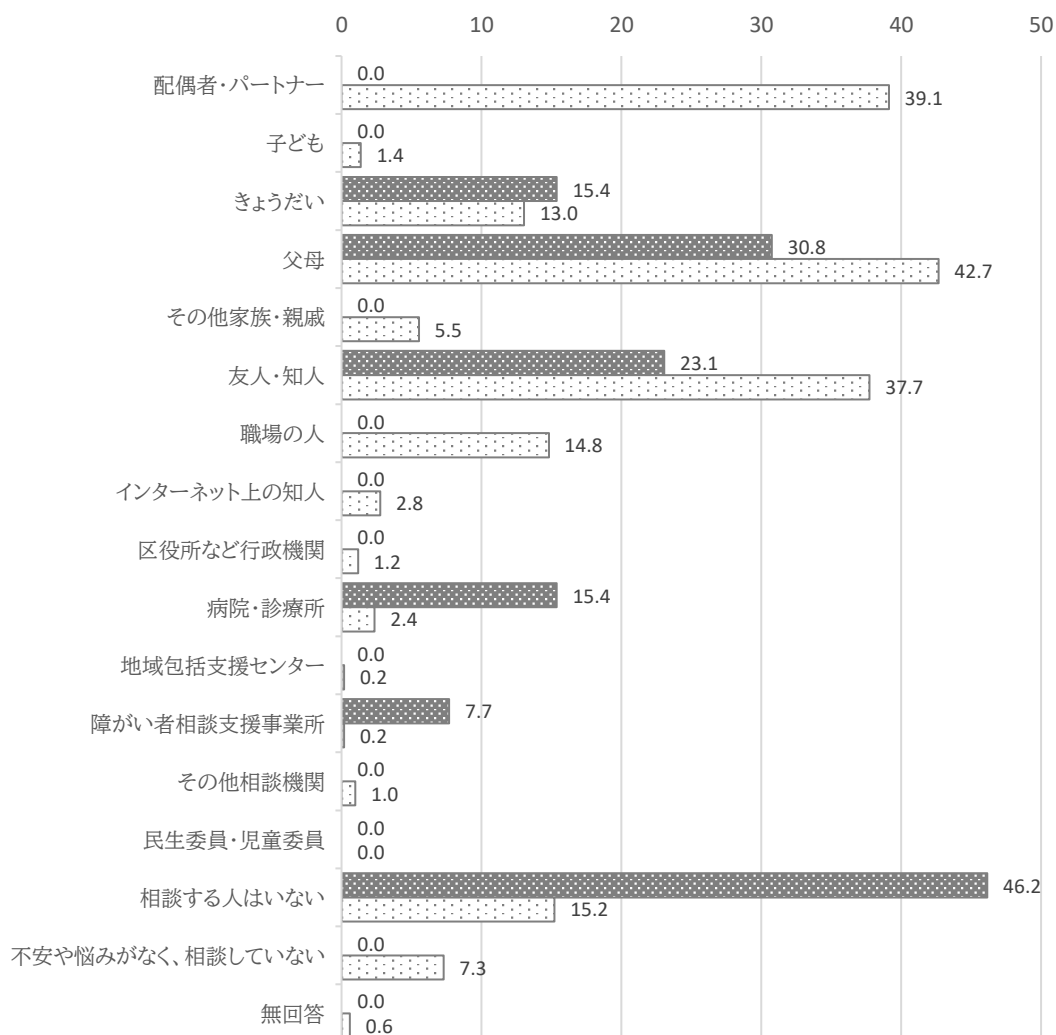
Q11 あなたは現在、日常生活の不安や悩みを誰に相談していますか。(〇はいくつでも)

15歳～39歳

■ 広義のひきこもり群 (13 人)

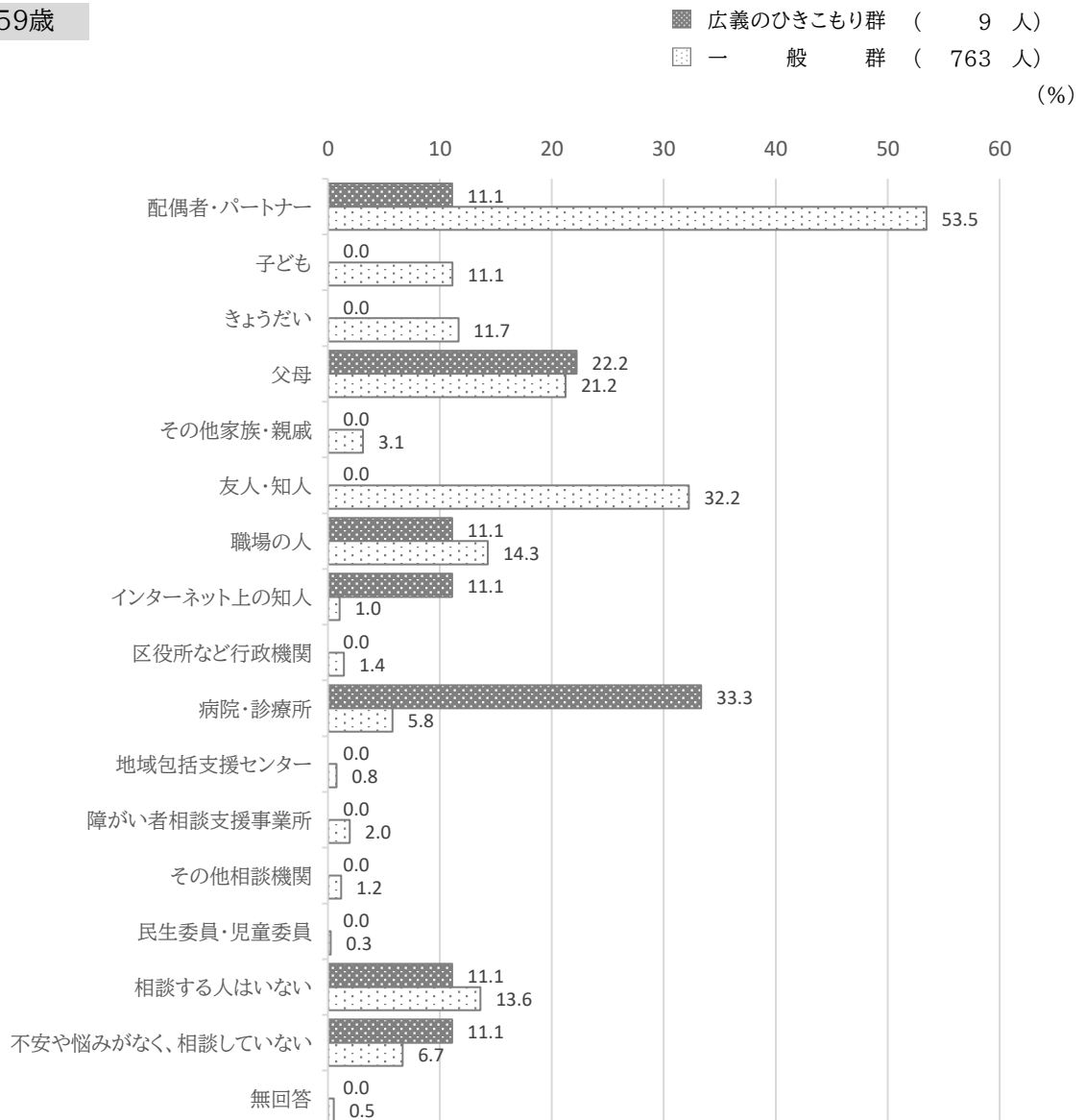
□ 一般群 (506 人)

(%)



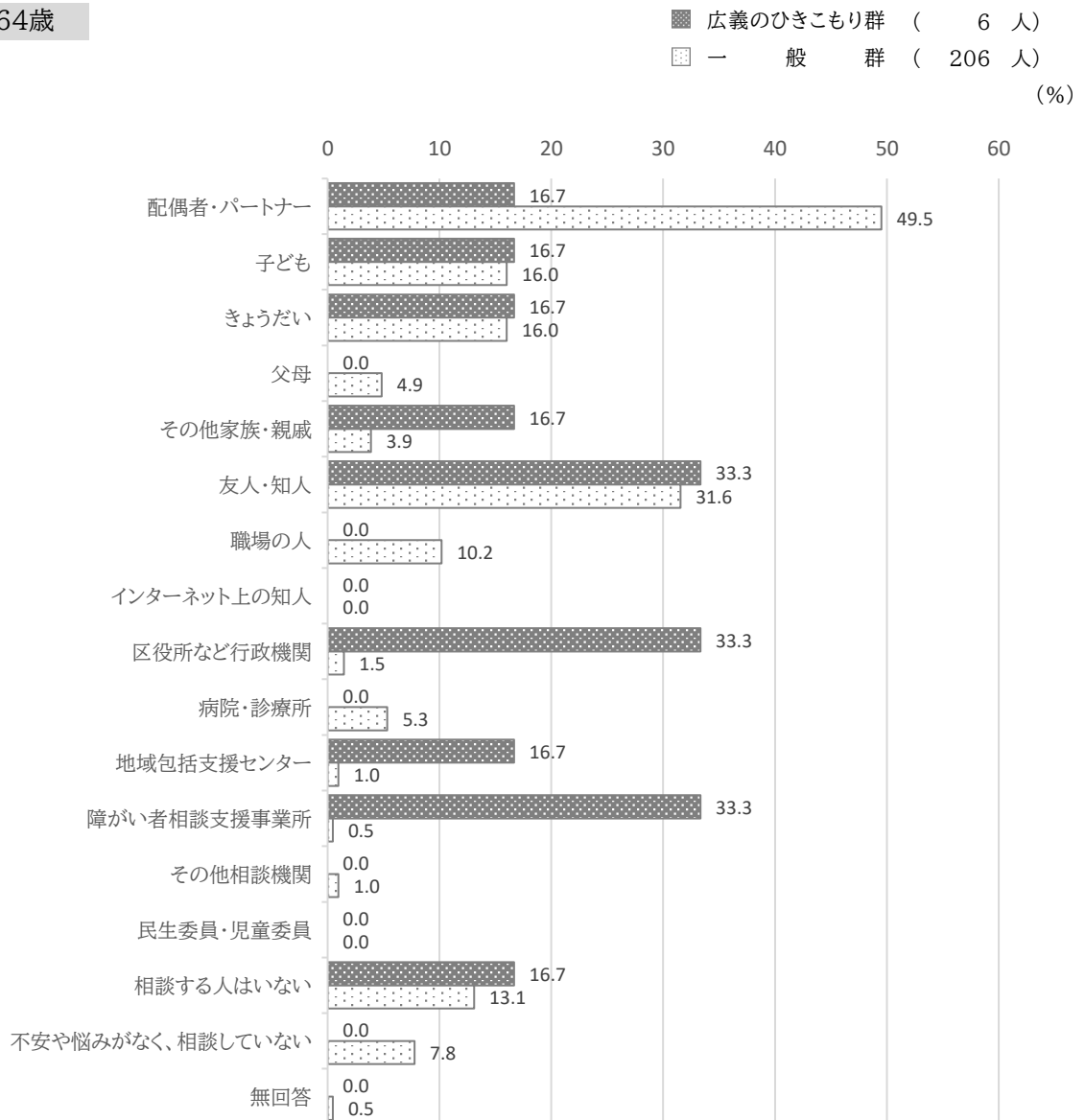
日常生活において不安や悩みの相談相手については、広義のひきこもり群では、最も多い「相談する人はいない」が46.2%、「病院・診療所」が15.4%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」及び「職場の人」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

40歳～59歳



日常生活において不安や悩みの相談相手については、広義のひきこもり群では、最も多い「病院・診療所」が33.3%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」が11.1%、「友人・知人」が0.0%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

60歳～64歳

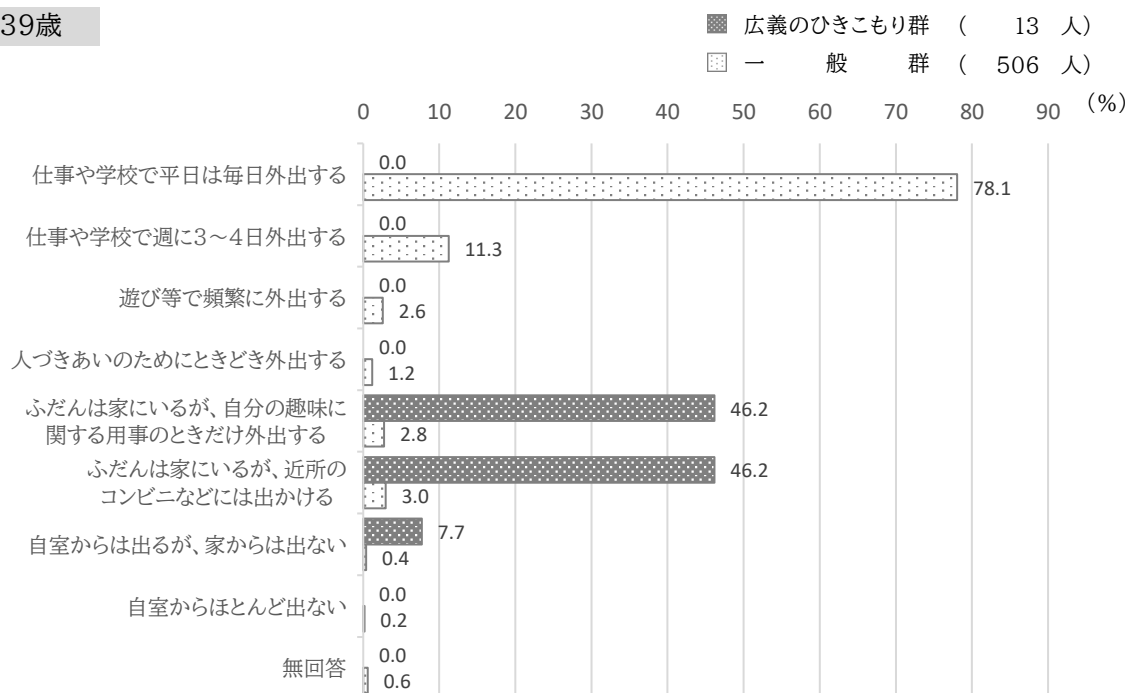


日常生活において不安や悩みの相談相手については、広義のひきこもり群では、「区役所など行政機関」及び「障がい者相談支援事業所」が33.3%、「その他家族・親戚」及び「地域包括支援センター」が16.7%で一般群に比べて多く、「配偶者・パートナー」が16.7%で一般群に比べて少ない傾向がみられた。

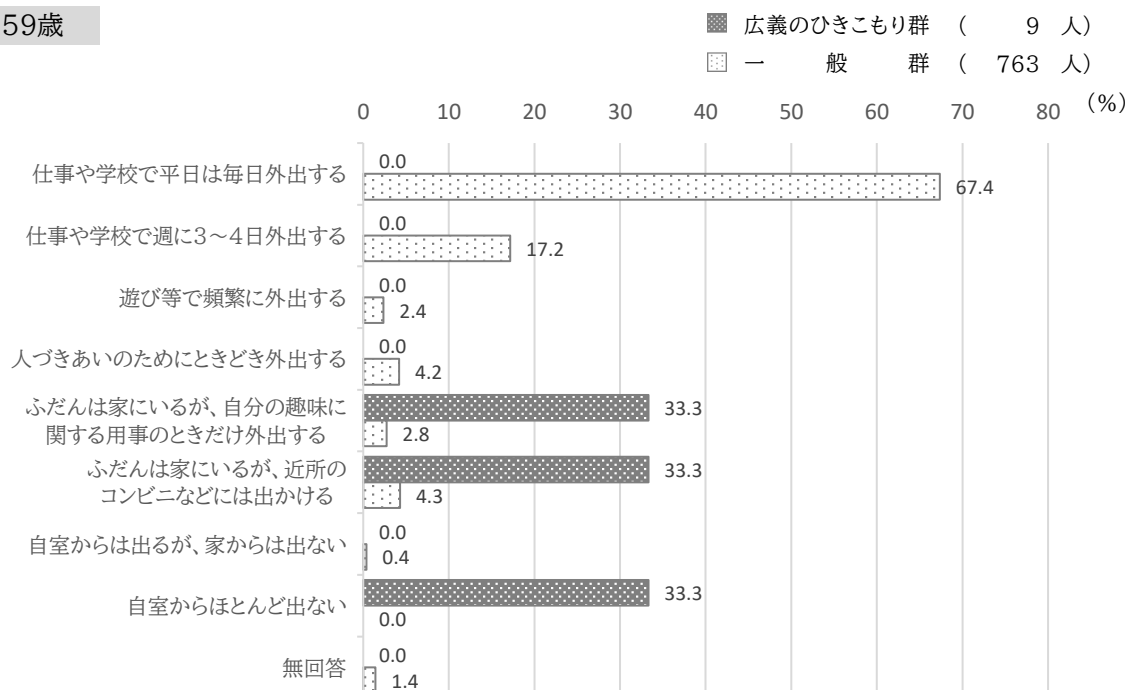
Q12 あなたはふだんどのくらい外出しますか。(○はひとつだけ)

※Q12の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用

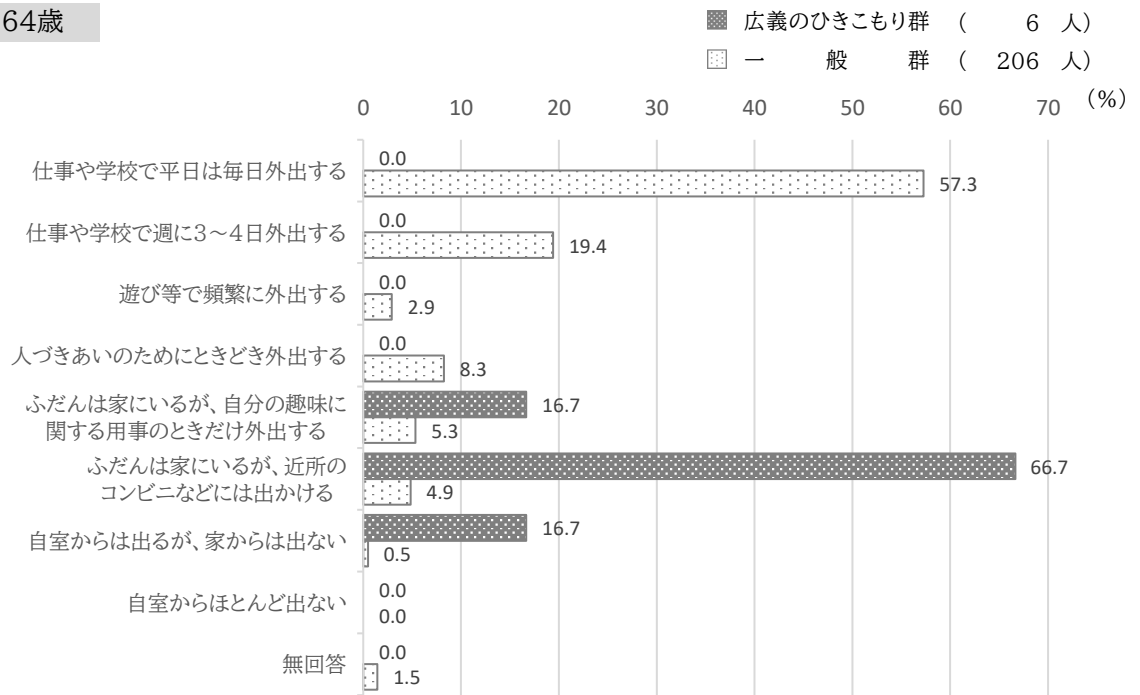
15歳～39歳



40歳～59歳



60歳～64歳

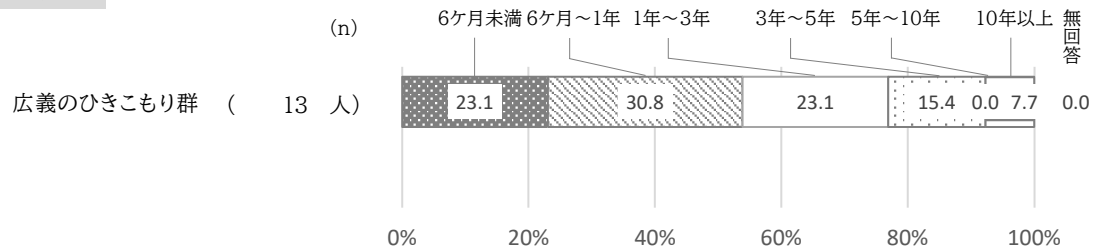


d. 本人のひきこもりの状態に関すること

【Q12で、5～8に○をつけた方のみ回答】

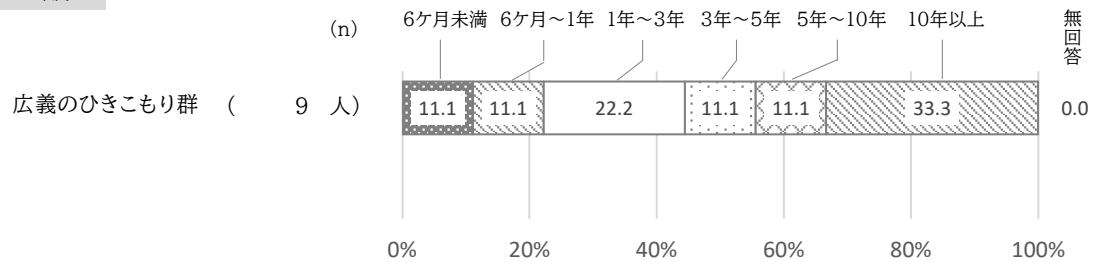
Q13-1 外出について、あなたが現在の状態になって、どのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)

15歳～39歳



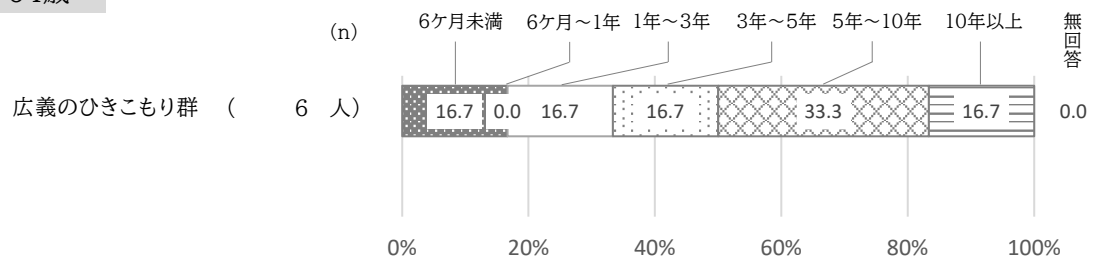
現在の状況になってからの期間は、広義のひきこもり群では、「6ヶ月以上～1年未満」が30.8%で最も多かった。

40歳～59歳



現在の状況になってからの期間は、広義のひきこもり群では、「10年以上」が33.3%で最も多かった。

60歳～64歳

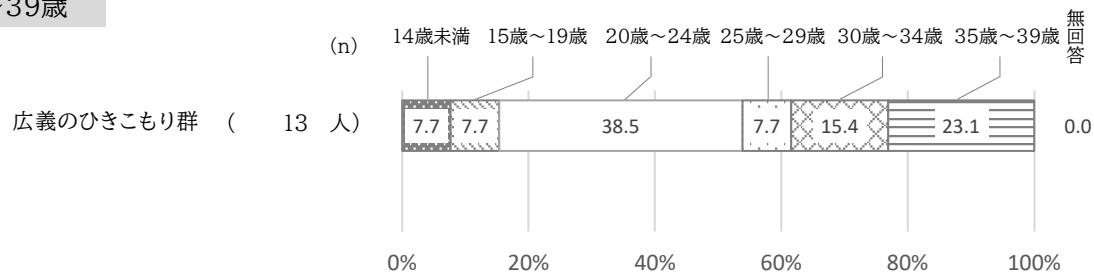


現在の状況になってからの期間は、広義のひきこもり群では、「5年以上～10年未満」が33.3%で最も多かった。

【Q12で、5～8に○をつけた方のみ回答】

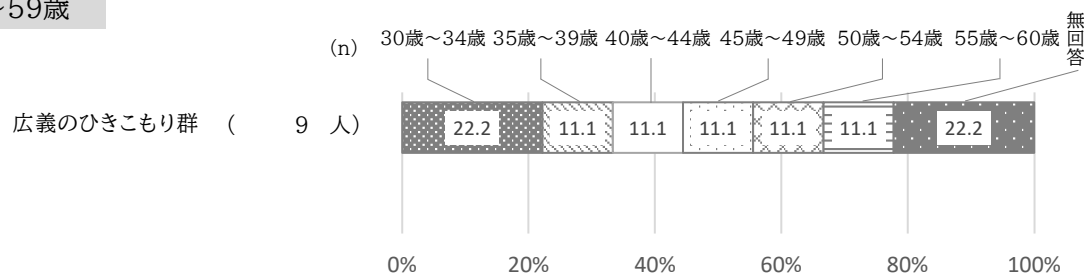
Q13-2 あなたが現在の状態になったのは、何歳頃ですか。(数字で具体的に)

15歳～39歳



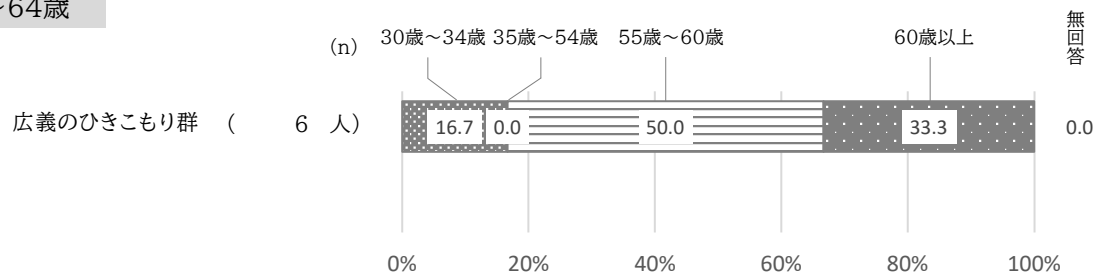
現在の状態になった年齢は、「20歳～24歳」が38.5%が最も多く、ついで「35歳～39歳」が23.1%であった。

40歳～59歳



現在の状態になった年齢は、「30歳～34歳」が22.2%が最も多く、「30歳未満」は0.0%であった。

60歳～64歳



現在の状態になった年齢は、「55歳～60歳」が50.0%が最も多く、ついで「60歳以上」が33.3%であった。

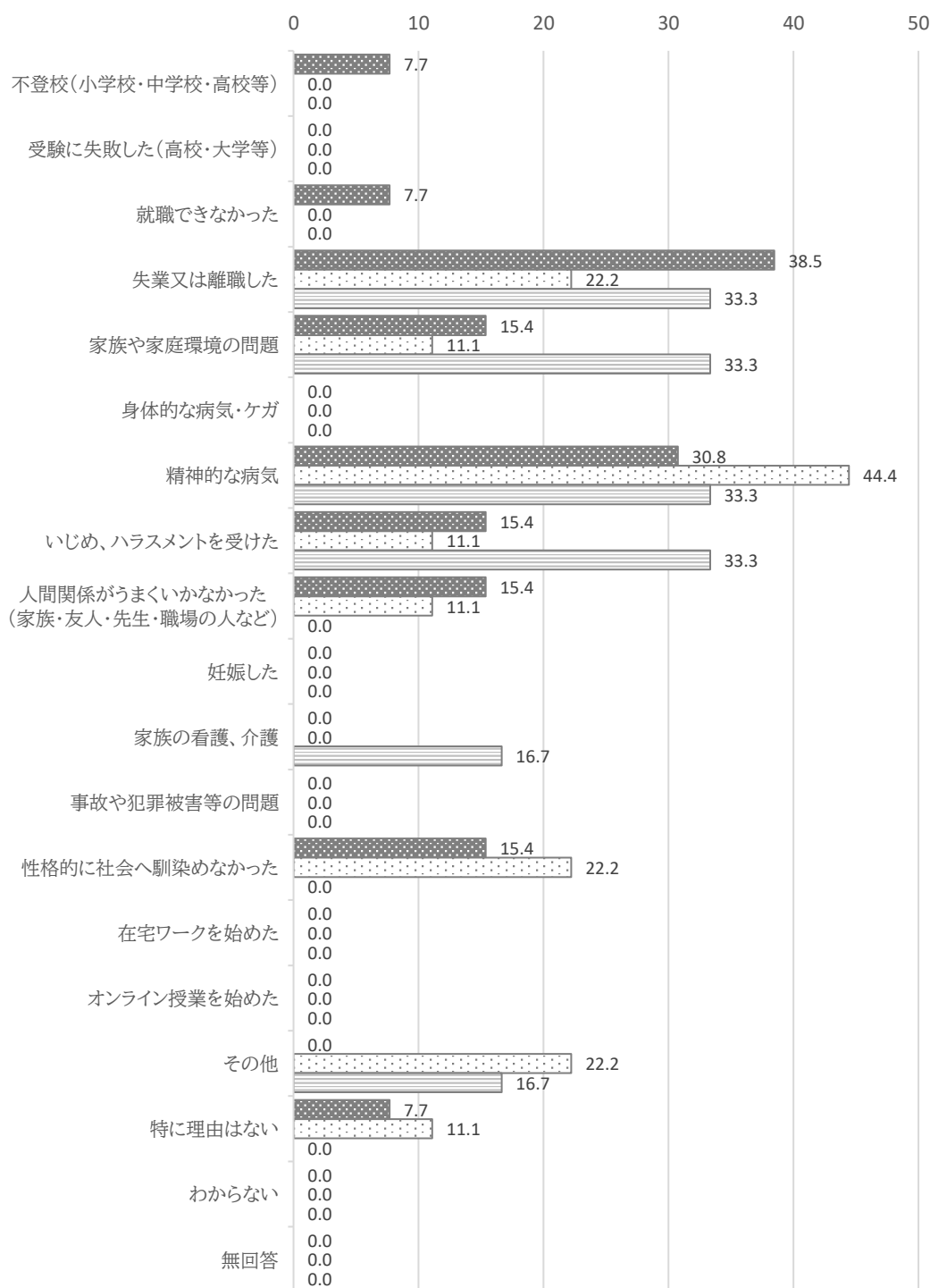
【Q12で、5～8に○をつけた方のみ回答】

Q13-3 あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

※Q13-3の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用

広義のひきこもり群

■ 15 歳 ～ 39 歳 (13 人)
 ▨ 40 歳 ～ 59 歳 (9 人)
 ▩ 60 歳 ～ 64 歳 (6 人)
 (%)

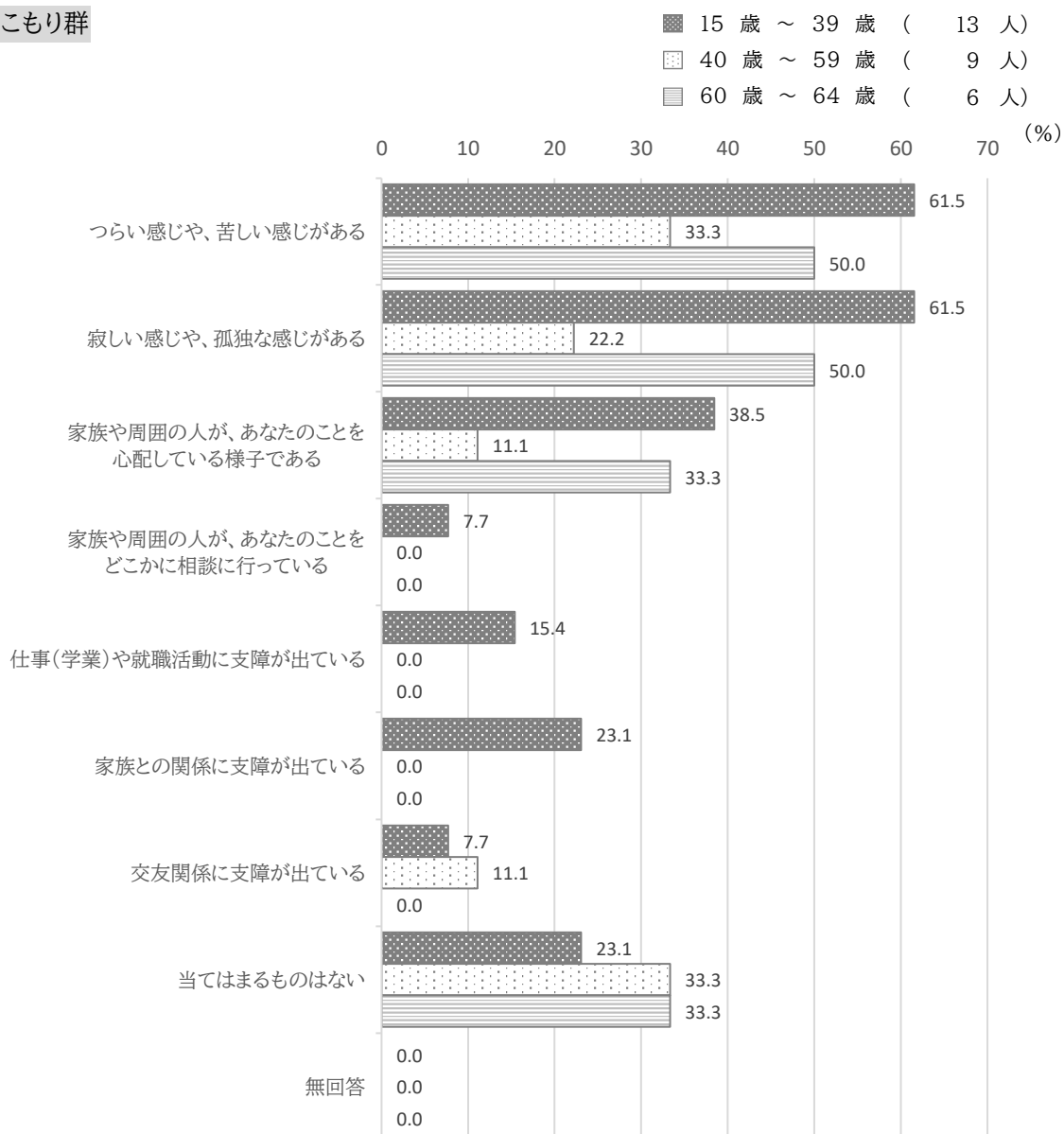


現在の状態になったきっかけについては、「15歳～39歳」では「失業又は離職した」が38.5%、「40歳～59歳」では「精神的な病気」が44.4%が最も多く、「60歳～64歳」では「失業又は離職した」、「家族や家庭環境の問題」、「精神的な病気」、「いじめ、ハラスメントを受けた」がともに33.3%であり、回答が分かれた。

【Q12で、5～8に○をつけた方のみ回答】

Q13-4 あなたの外出状況に関連した現在の状態について、当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

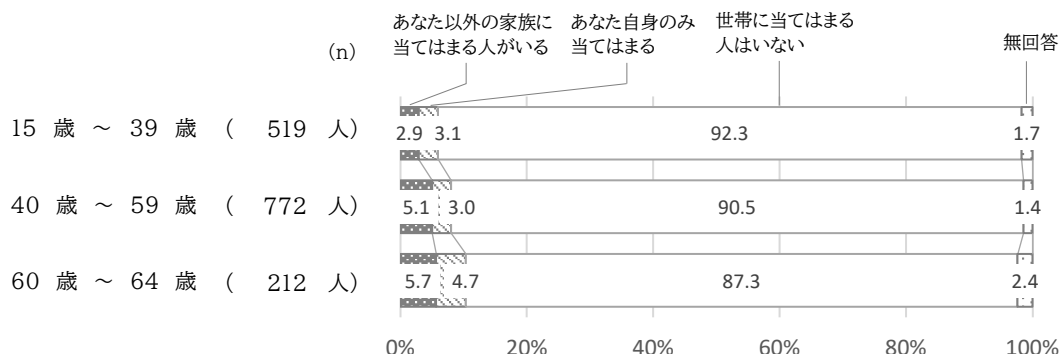
広義のひきこもり群



外出状況に関連した現在の状態については、「15歳～39歳」では「つらい感じや、苦しい感じがある」及び「寂しい感じや、孤独な感じがある」が61.5%、「40歳～59歳」では「つらい感じや、苦しい感じがある」及び「当てはまるものはない」が33.3%、「60歳～64歳」では「つらい感じや、苦しい感じがある」及び「寂しい感じや、孤独な感じがある」が50.0%で最も多かった。

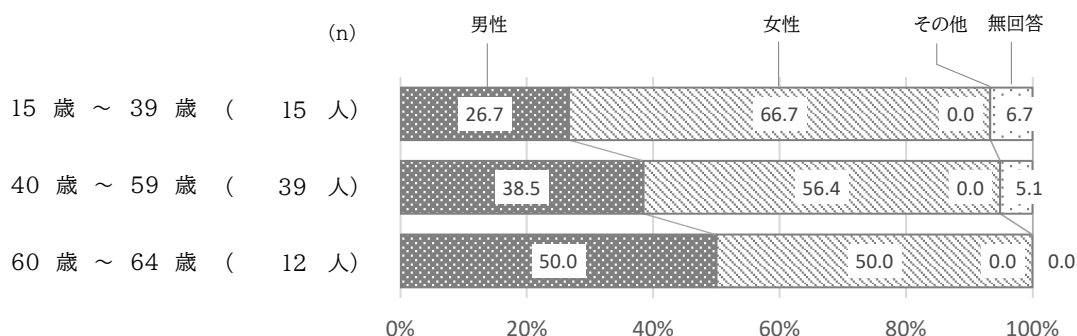
e. 世帯内のひきこもりの状態の方に関すること

Q14 あなたが同居している世帯の中に、「仕事や学校などに行かず、家族以外の人とほとんど交流しない状態に当てはまる方」が、現在いますか。(○はひとつだけ)



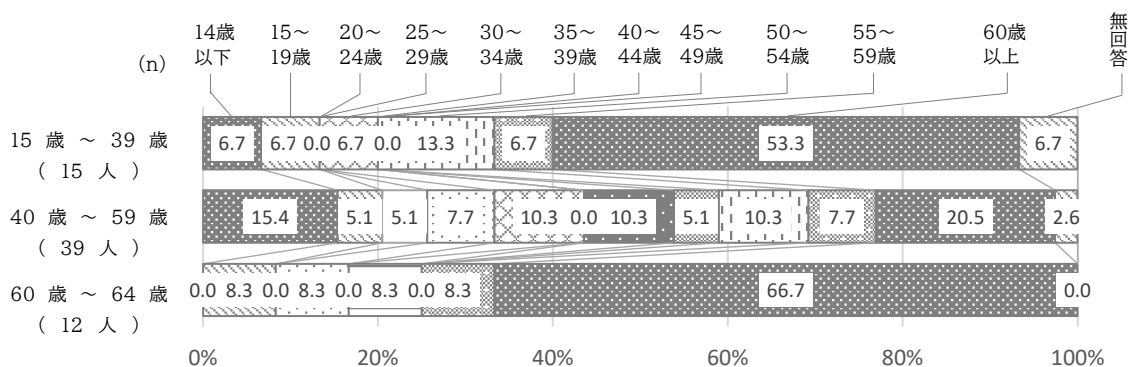
【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

Q15-1 その方の性別をお答えください。(○はひとつだけ)



【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

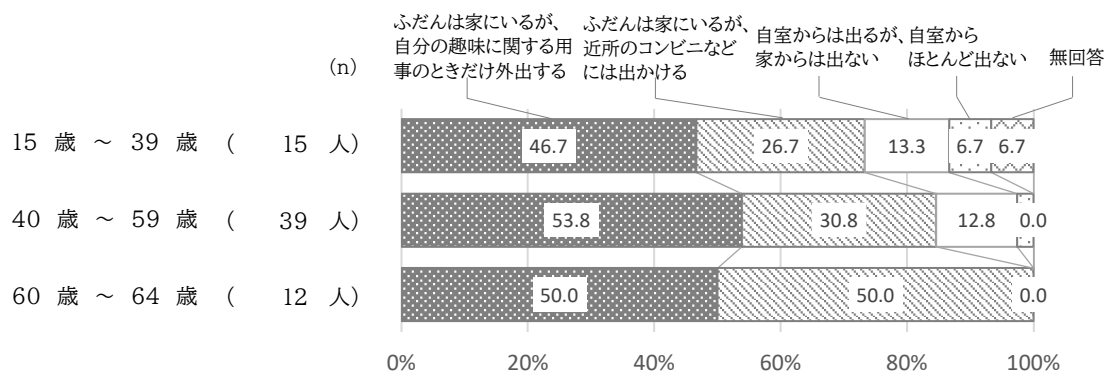
Q15-2 その方の現在(令和7年9月24日現在)の年齢をお答えください。(数字で具体的に)



同居している家族でひきこもり状態の方の年齢は、回答者の年代が「40歳～59歳」では各年齢に回答が分かれたのに対し、回答者の年代が「15歳～39歳」及び「60歳～64歳」では半数以上が「60歳以上」という回答であった。

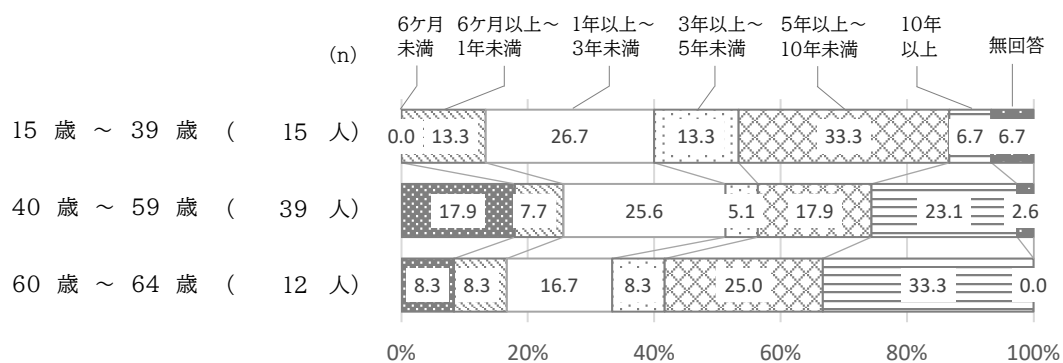
【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

Q15-3 その方の外出の状況についてお答えください。(○はひとつだけ)



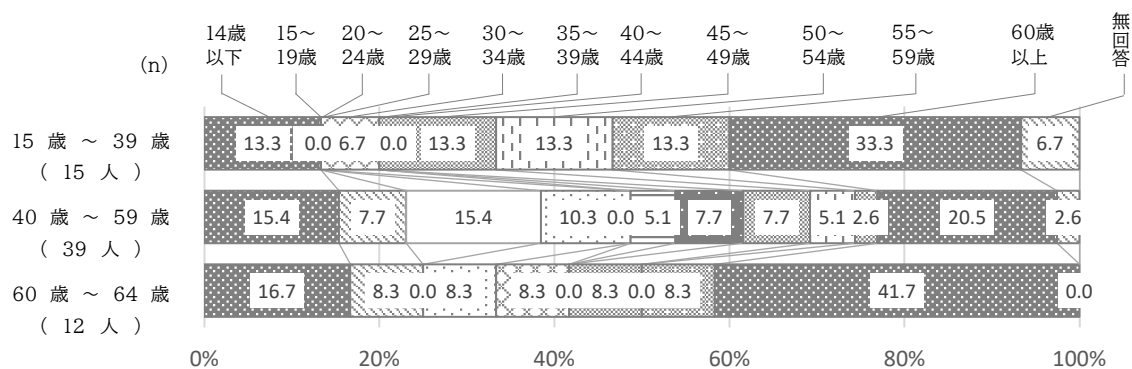
【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

Q15-4 その方の外出の状況が、現在の状態になってどのぐらい経ちますか。(○はひとつだけ)



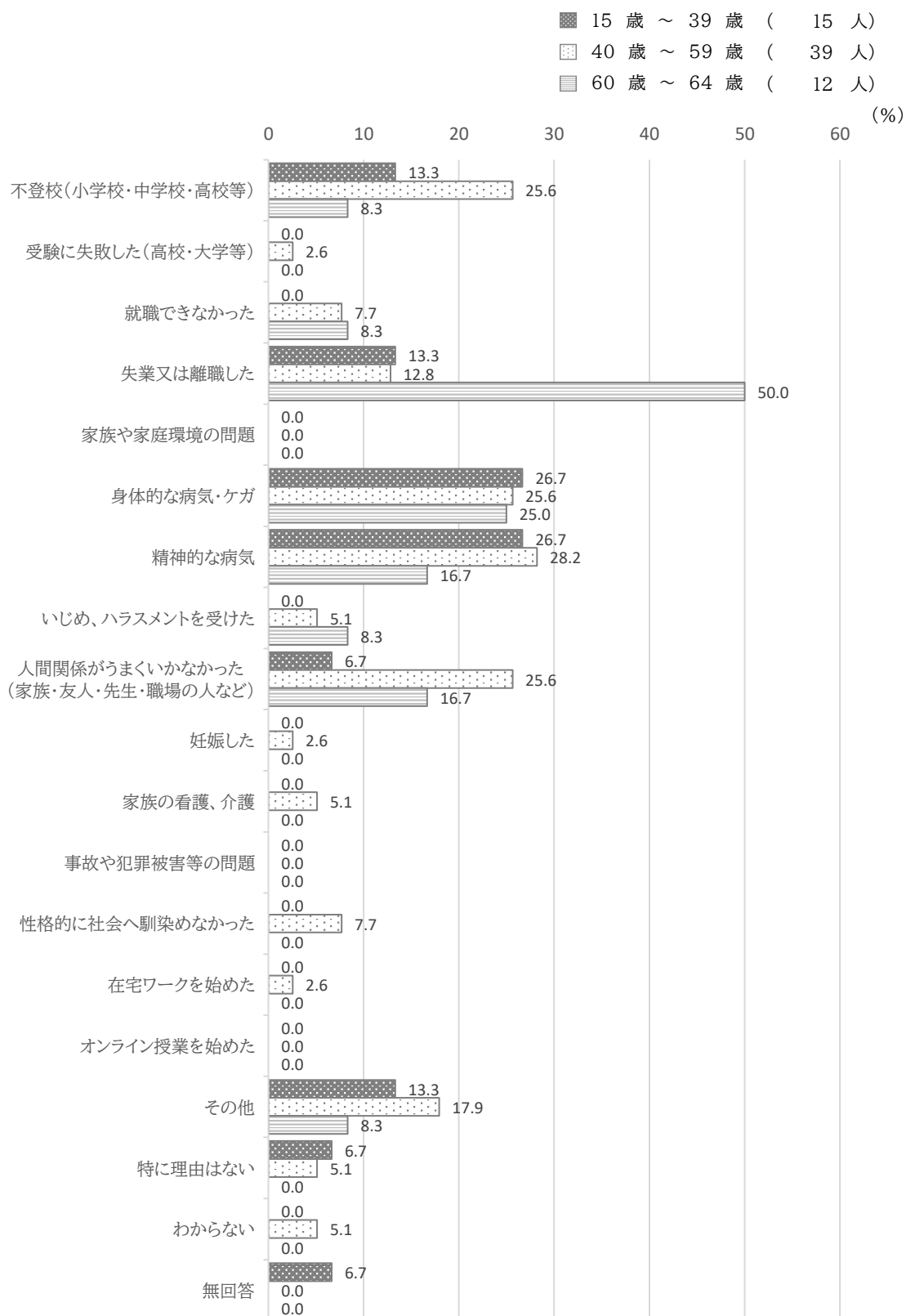
【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

Q15-5 その方の外出の状況が、現在の状態になったのは何歳頃ですか。(数字で具体的に)



【Q14で、1に○をつけた方のみ回答】

Q15-6 その方の外出の状況が、現在の状態になったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

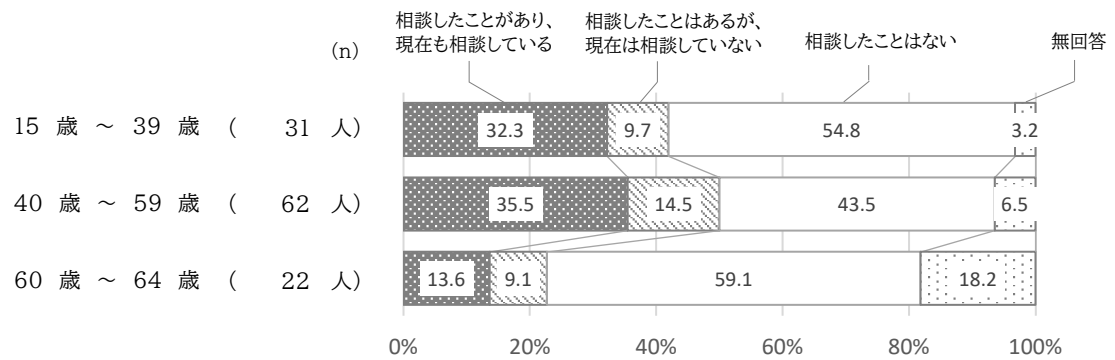


現在の状態になったきっかけについては、「15歳～39歳」では「身体的な病気・ケガ」及び「精神的な病気」が26.7%、「60歳～64歳」では「失業又は離職した」が50.0%が最も多く、「40歳～59歳」では「精神的な病気」が28.2%、「不登校(小学校・中学校・高校等)」、「身体的な病気・ケガ」及び「人間関係がうまくいかなかった(家族・友人・先生・職場の人など)」が25.6%であり、回答が分かれた。

f. 相談経験に関すること

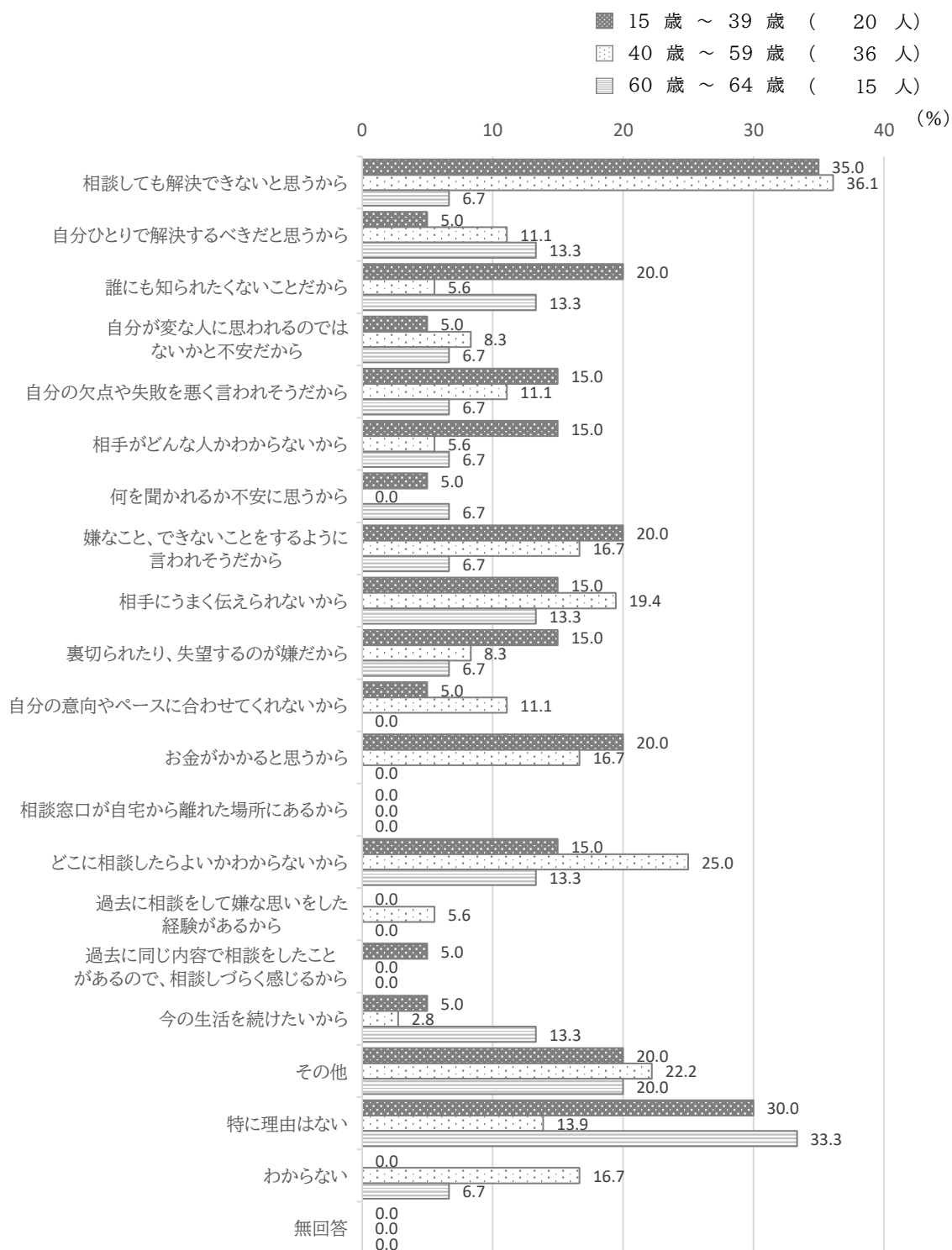
【Q14で、1～2に○をつけた方のみ回答】

Q16 「仕事や学校などに行かず、家族以外の人とほとんど交流しない状態の方が世帯の中にいること」について、専門機関や医療機関などに相談したことはありますか。(○はひとつだけ)



【Q16で、2～3に○をつけた方のみ回答】

Q17「相談したことはない」又は「相談したことはあるが、現在は相談していない」理由は何ですか。(○はいくつで



相談しない理由については、「相談しても解決できないと思うから」が「15歳～39歳」で35.0%、「40歳～59歳」で36.1%と最も多く、「60歳～64歳」では6.7%と低い傾向がみられた。

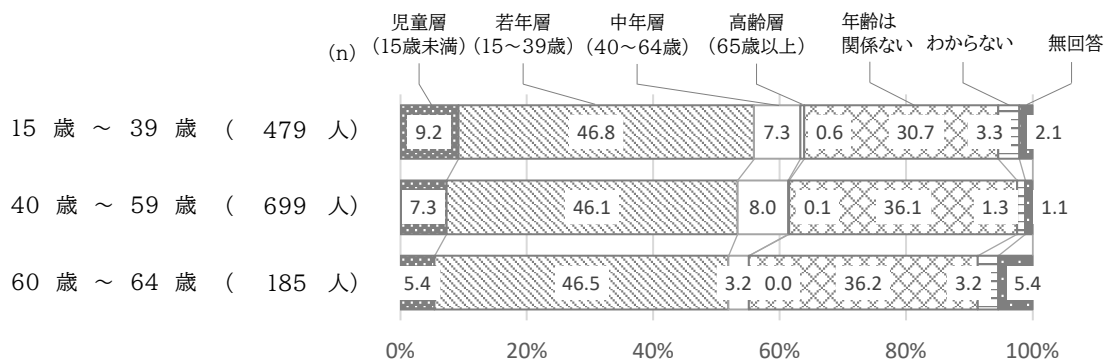
その他の内容

年代	内容	
すべて	相談する必要性がない(6件) 相談しても変わらない(2件) 一時的なものだから 信用したいがしづらい 本人が嫌がるため	気持ちの問題 うつ病なので長時間他人と関わるのが疲れる 継続的ではないが、都度主治医に相談する 躁鬱対応を優先 いろんな事に行き詰まり苦しくなってきた

g. ひきこもり状態への認識に関すること

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

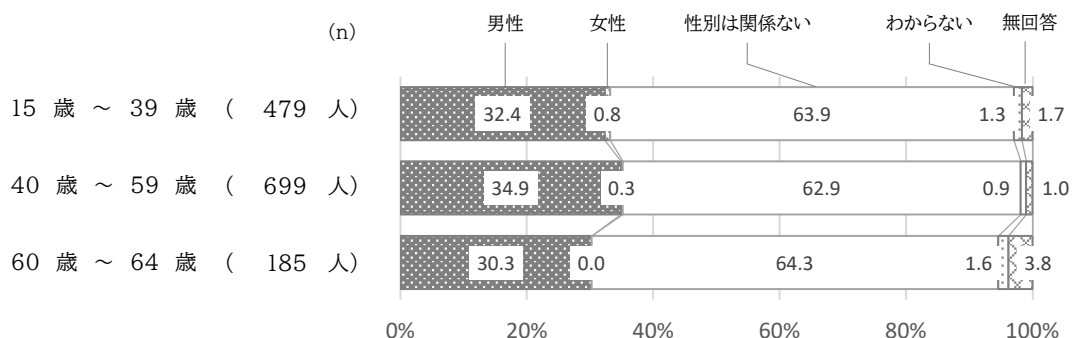
Q18-1 あなたは「ひきこもり」という言葉から、特にどの年齢層を思い浮かべますか。(○はひとつだけ)



「ひきこもり」という言葉から思い浮かべる年齢層は、各年代とも「若年層(15～39歳)」が最も多く、ついで「年齢は関係ない」であった。

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

Q18-2 あなたは「ひきこもり」という言葉から、どの性別を思い浮かべますか。(○はひとつだけ)

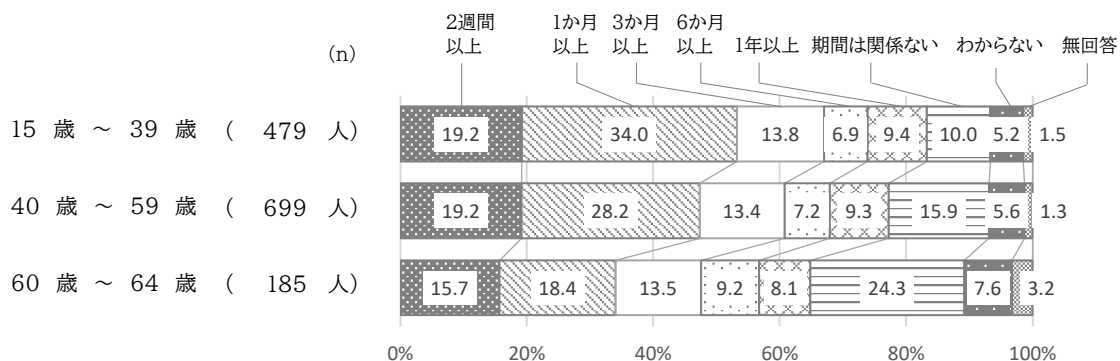


「ひきこもり」という言葉から思い浮かべる性別は、各年代とも「性別は関係ない」が最も多く、ついで「男性」であった。

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

Q18-3 あなたは、家や自室にどのくらいの期間ひきこもっていた場合、「ひきこもり」の状態にあると思いますか。

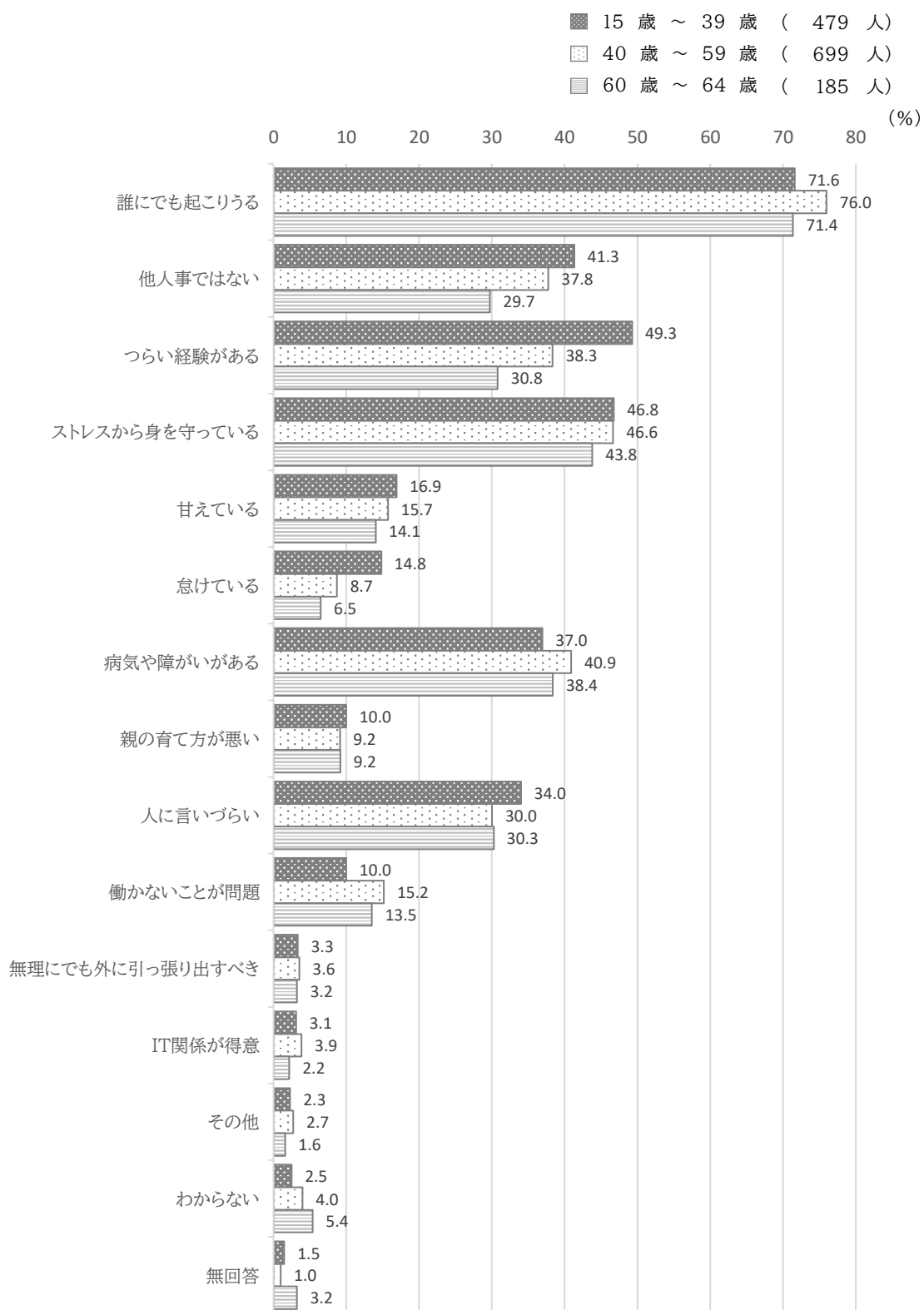
(○はひとつだけ)



「ひきこもり」と判断する期間については、「15歳～39歳」と「40歳～59歳」では「1か月以上」が最も多く、ついで「2週間以上」であった。「60歳～64歳」では「期間は関係ない」が最も多く、ついで「1か月以上」であった。

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

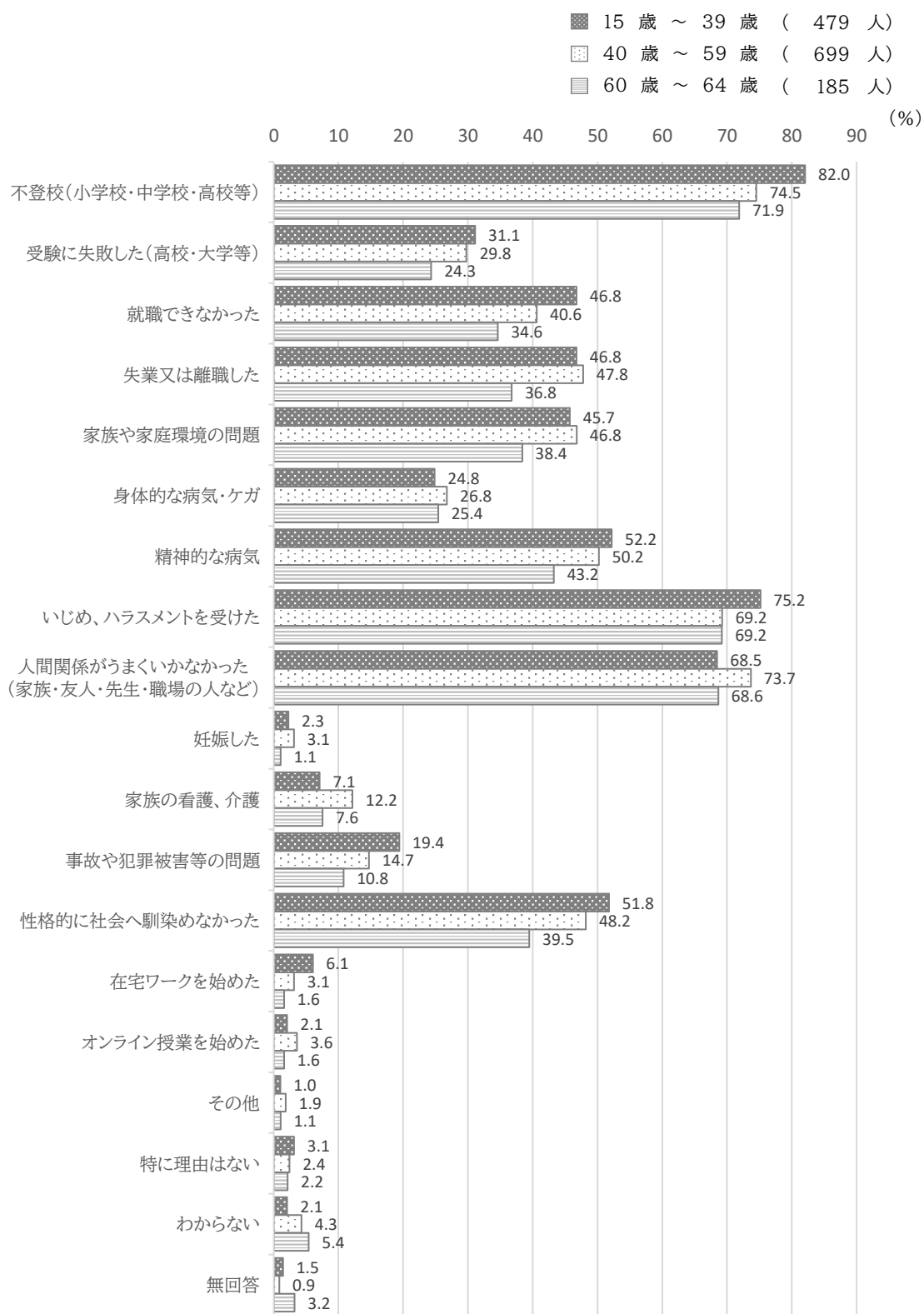
Q18-4 あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えを持っていますか。この中からいくつでもお選びください。(○はいくつでも)



ひきこもり状態への印象や考え方は、各年代とも「誰にでも起こり得る」が最も多かった。

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

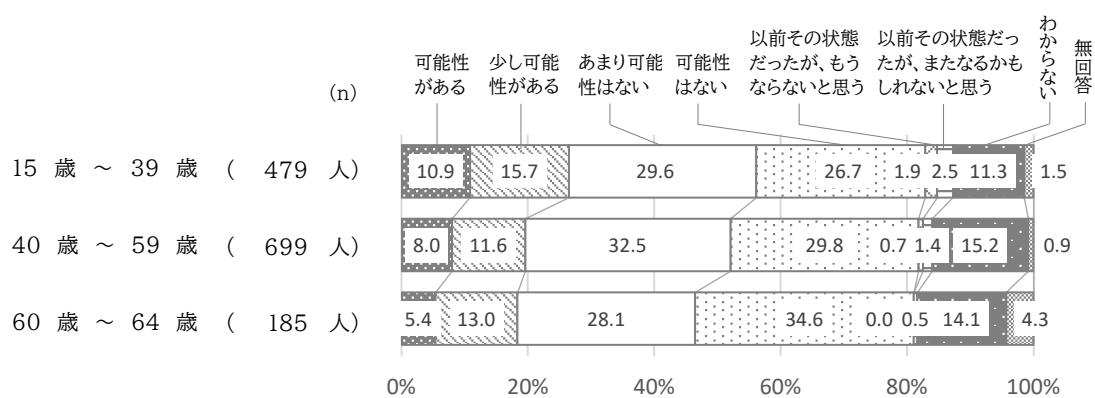
Q18-5 あなたは「ひきこもり」という状態になるきっかけとして、何が多いと思いますか。この中からいくつでもお選びください。(○はいくつでも)



ひきこもり状態になるきっかけとして考えられることは、各年代とも「不登校(小学校・中学校・高校等)」、「いじめ、ハラスメントを受けた」、「人間関係がうまくいかなかった(家族・友人・先生・職場の人など)」の回答が多かった。

【Q14で、3に○をつけた方のみ回答】

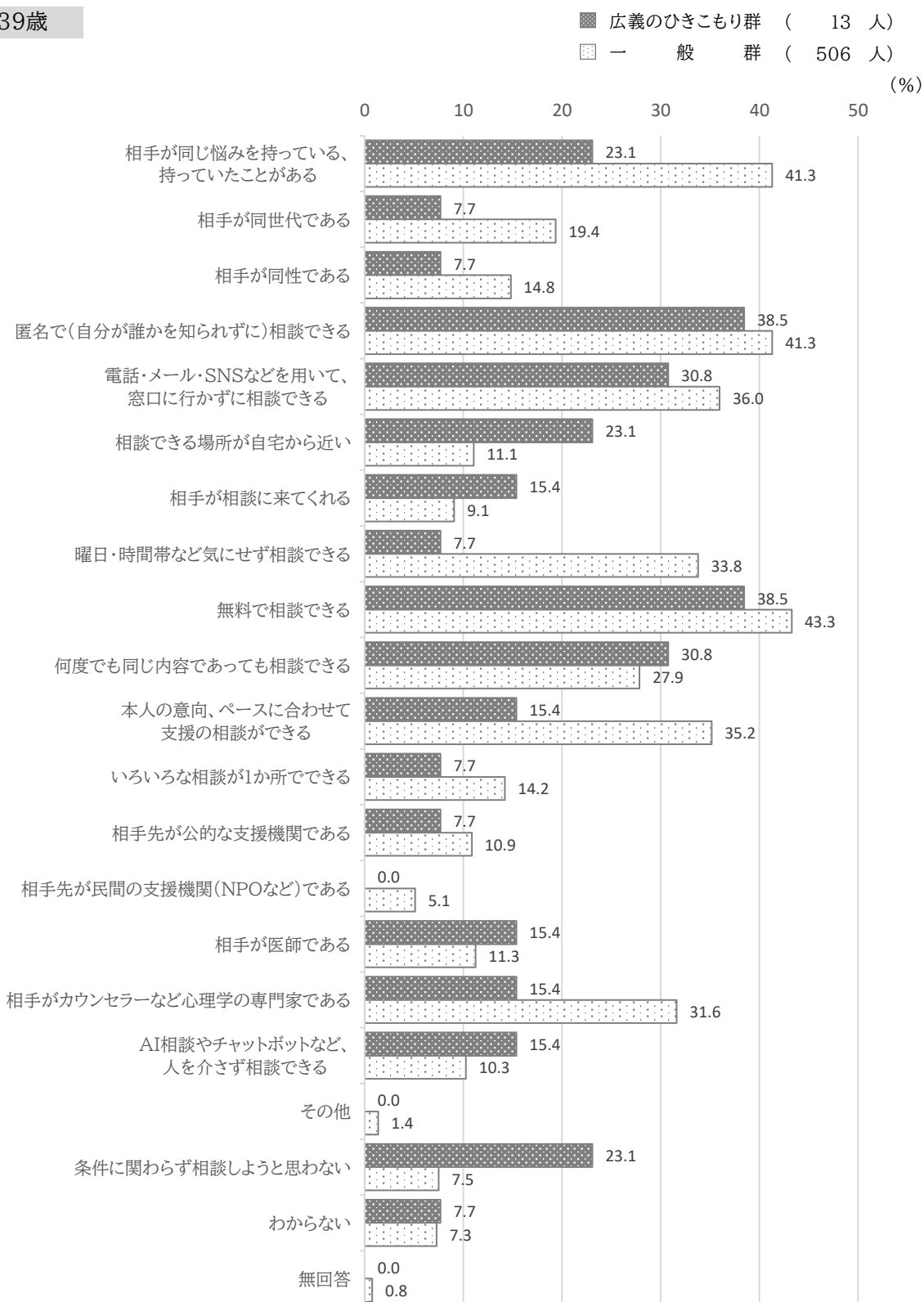
Q18-6 あなたは、ご自身がひきこもり状態になる可能性がありますか。(○はひとつだけ)



h. ひきこもり状態になったときの相談・支援に関すること

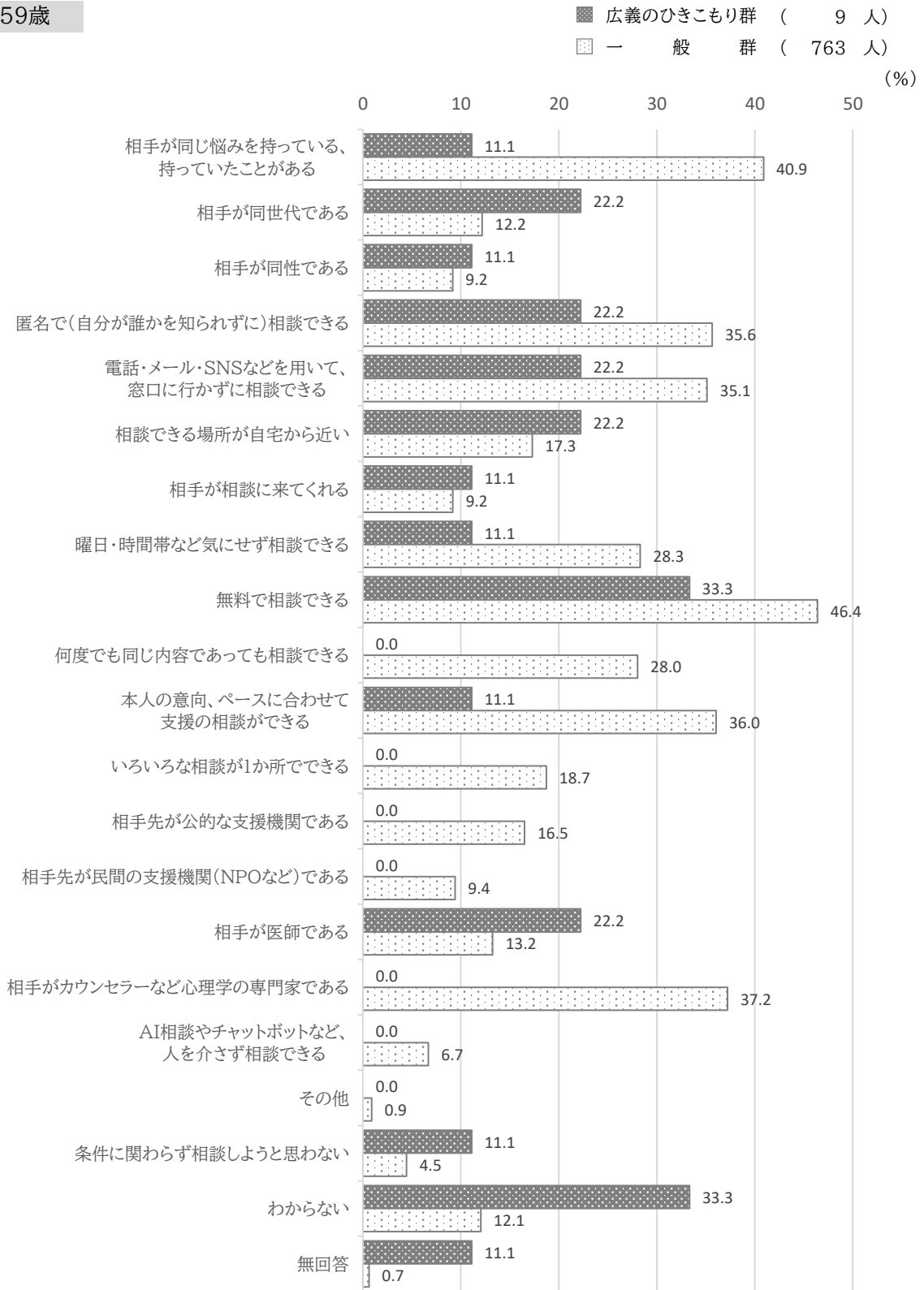
Q19 ひきこもりの状態になったとき、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

15歳～39歳



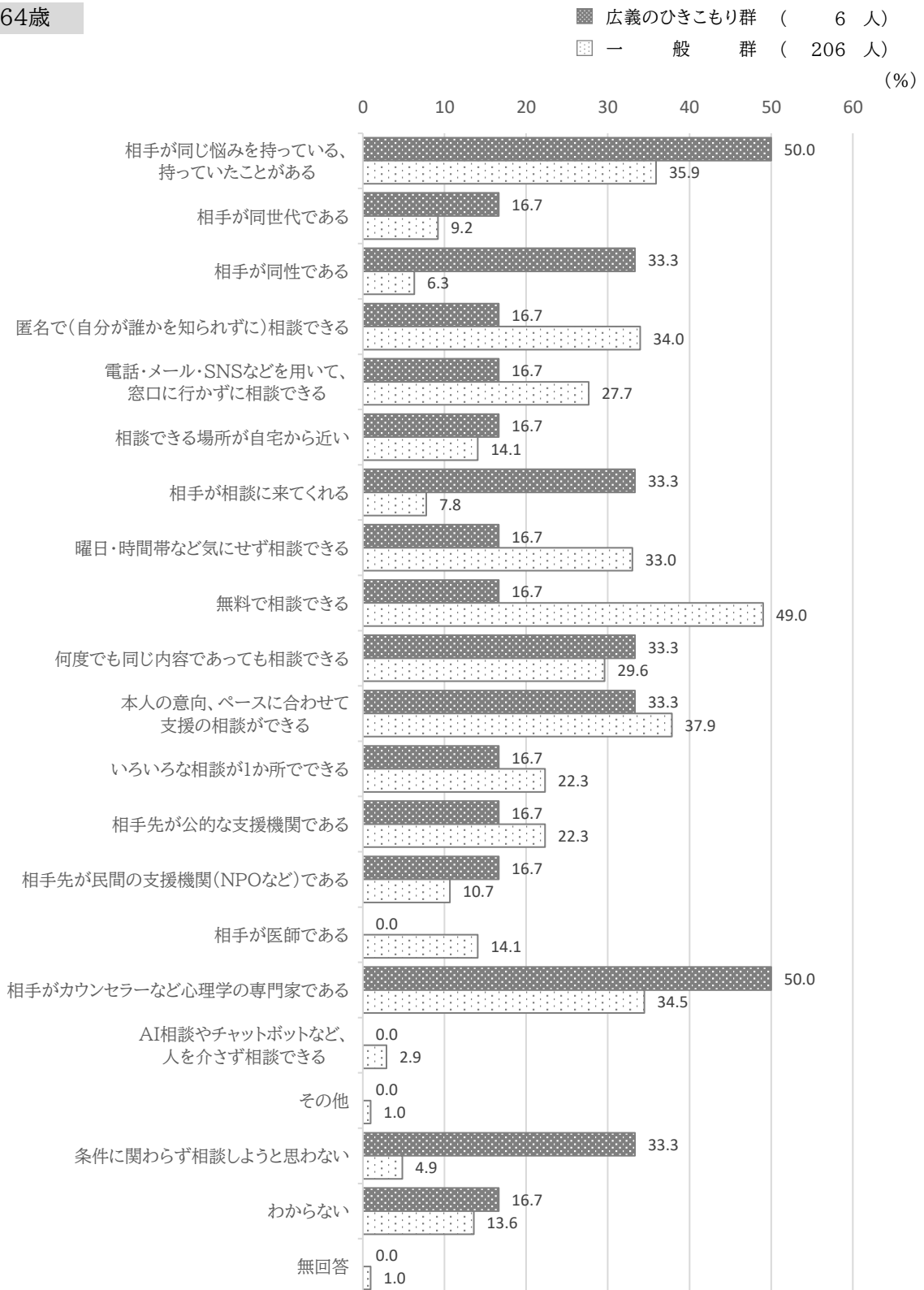
家族や知り合い以外に相談したい場所については、広義のひきこもり群では、「匿名で(自分が誰かを知られずに)相談できる」及び「無料で相談できる」が38.5%で最も多かった。

40歳～59歳



家族や知り合い以外に相談したい場所については、広義のひきこもり群では、「無料で相談できる」及び「わからない」が33.3%で最も多かった。

60歳～64歳



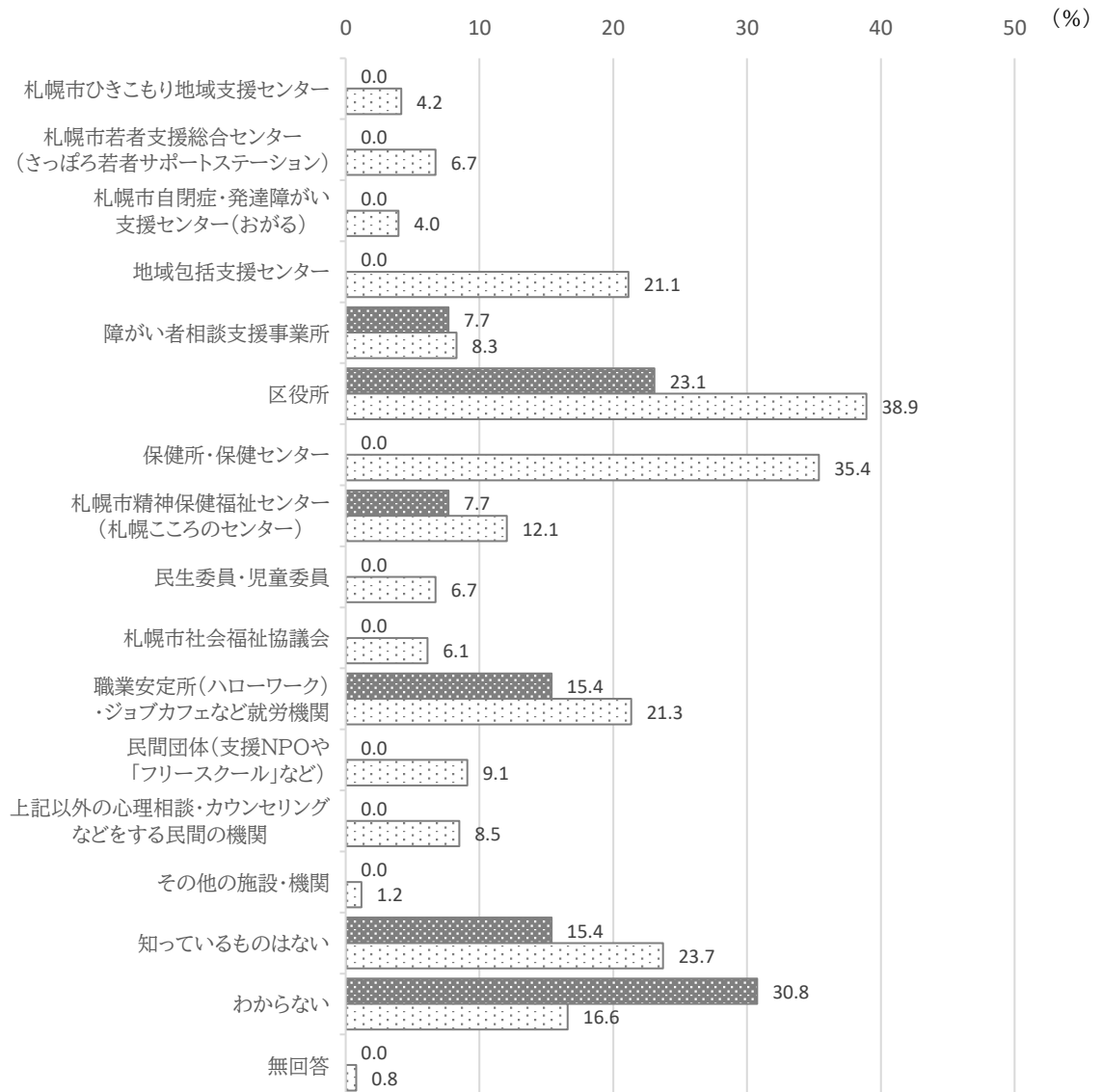
家族や知り合い以外に相談したい場所については、広義のひきこもり群では、最も多い「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」及び「相手がカウンセラーなど心理学の専門家である」が50.0%で多い傾向がみられた。

Q20 生活や困りごとについて相談できる窓口として、あなたが知っている窓口・相談機関に○をつけてください。(○はいくつでも)

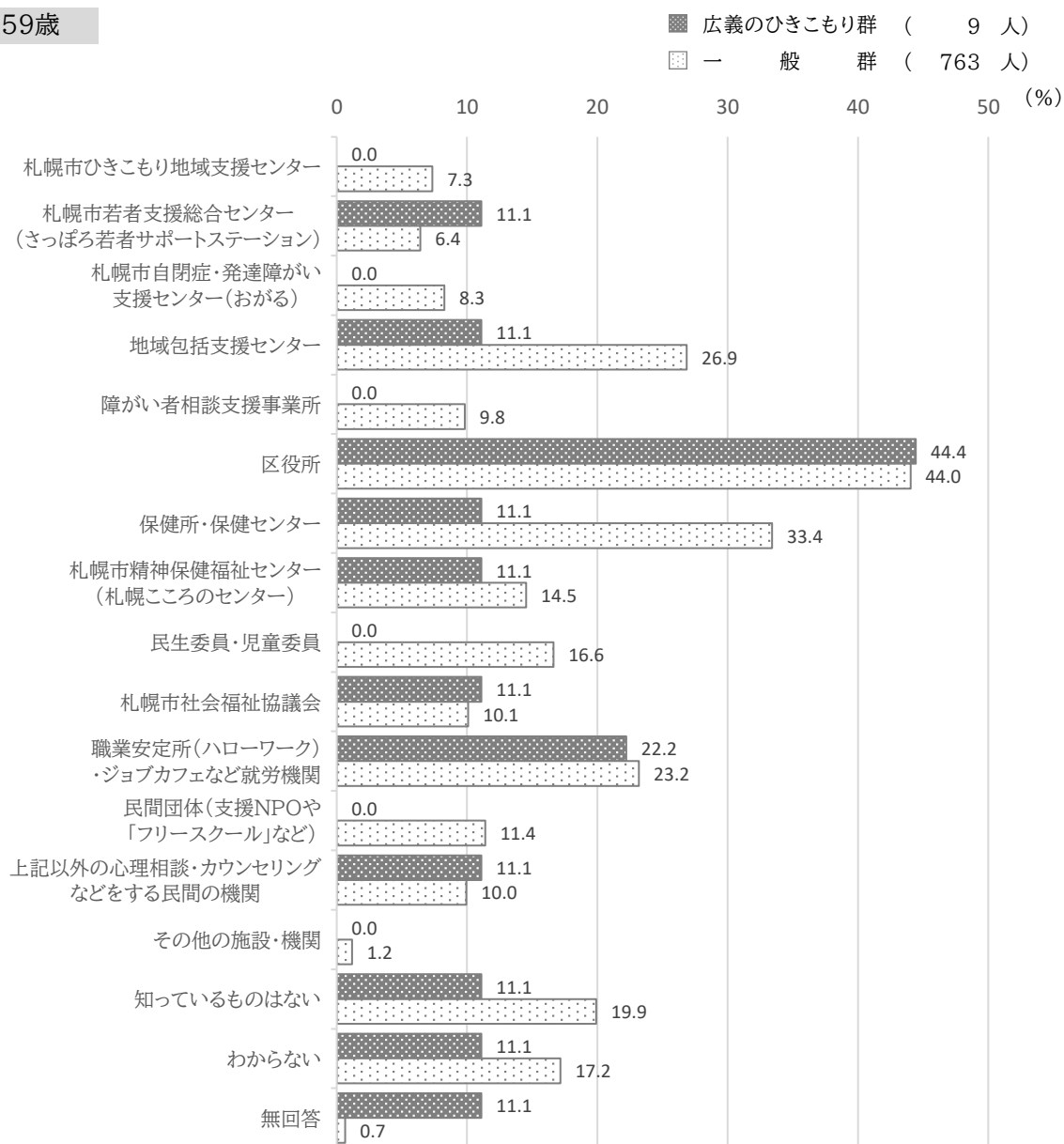
15歳～39歳

■ 広義のひきこもり群 (13 人)

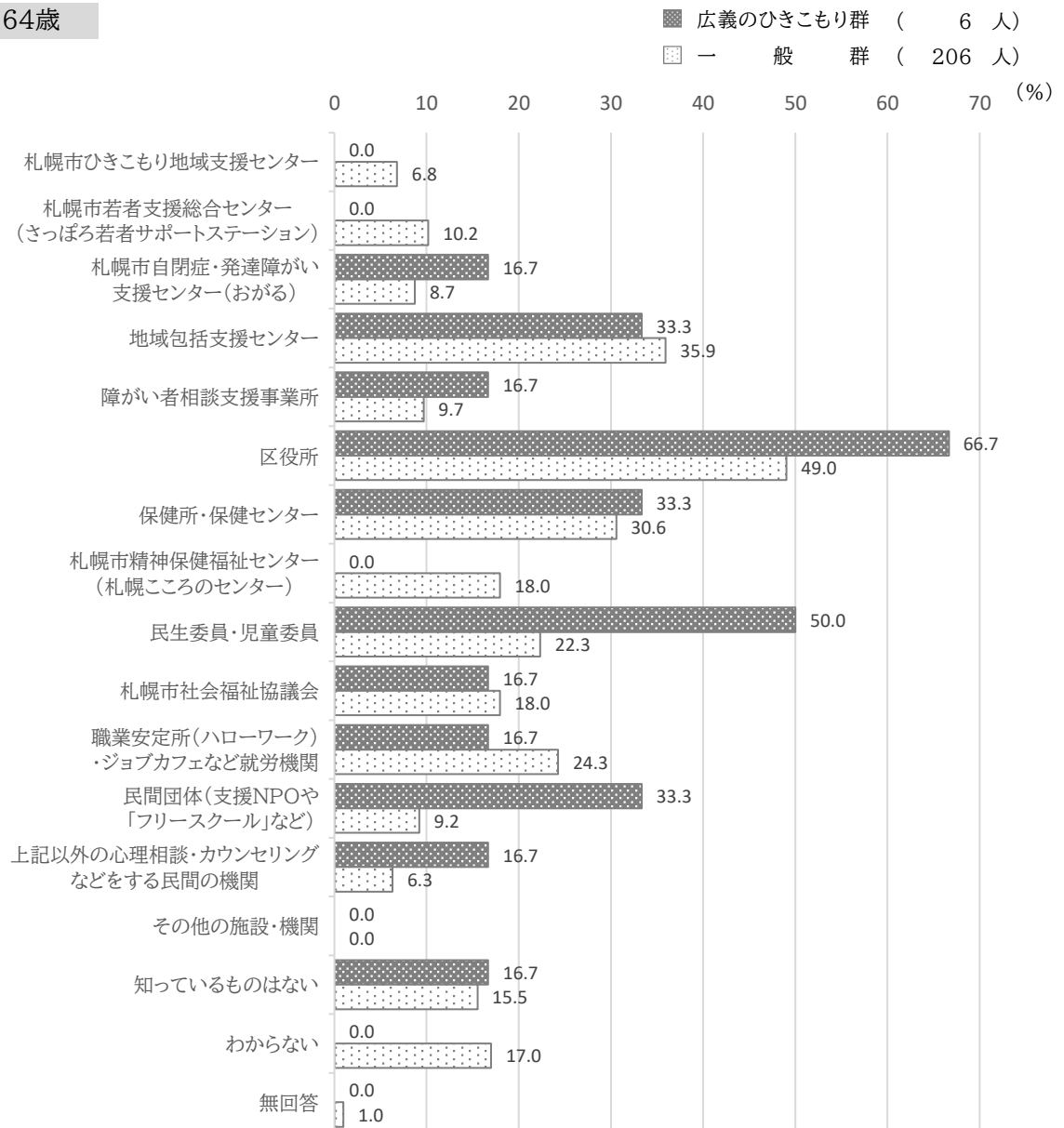
□ 一般群 (506 人)



40歳～59歳

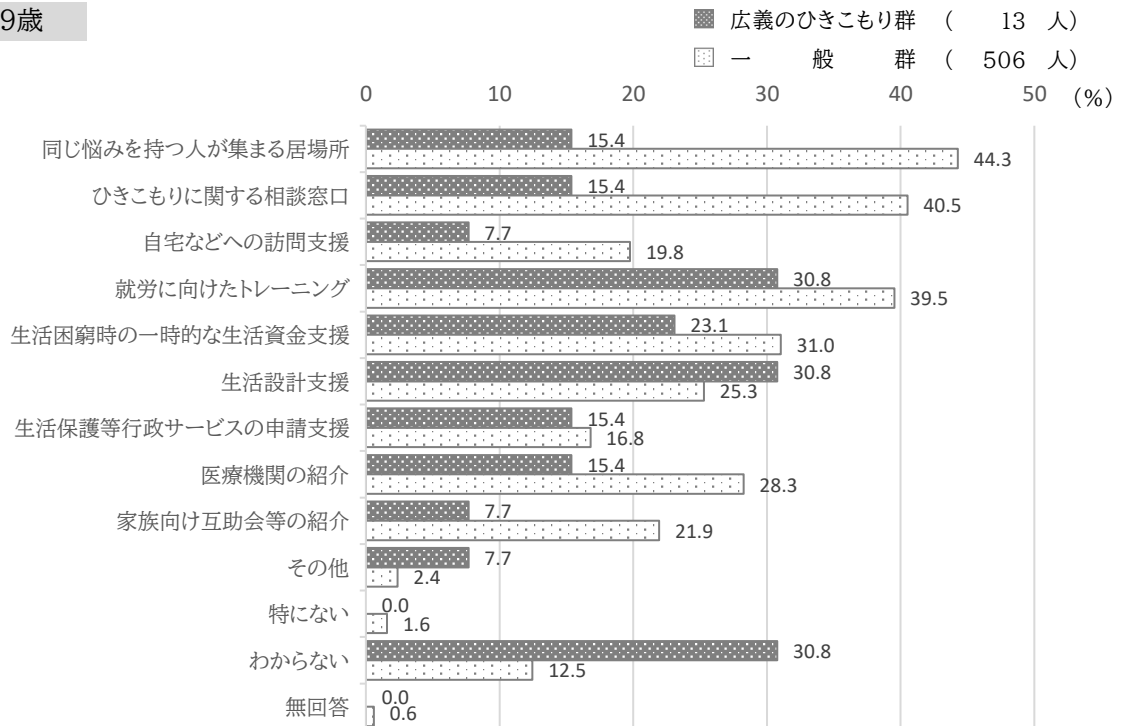


60歳～64歳



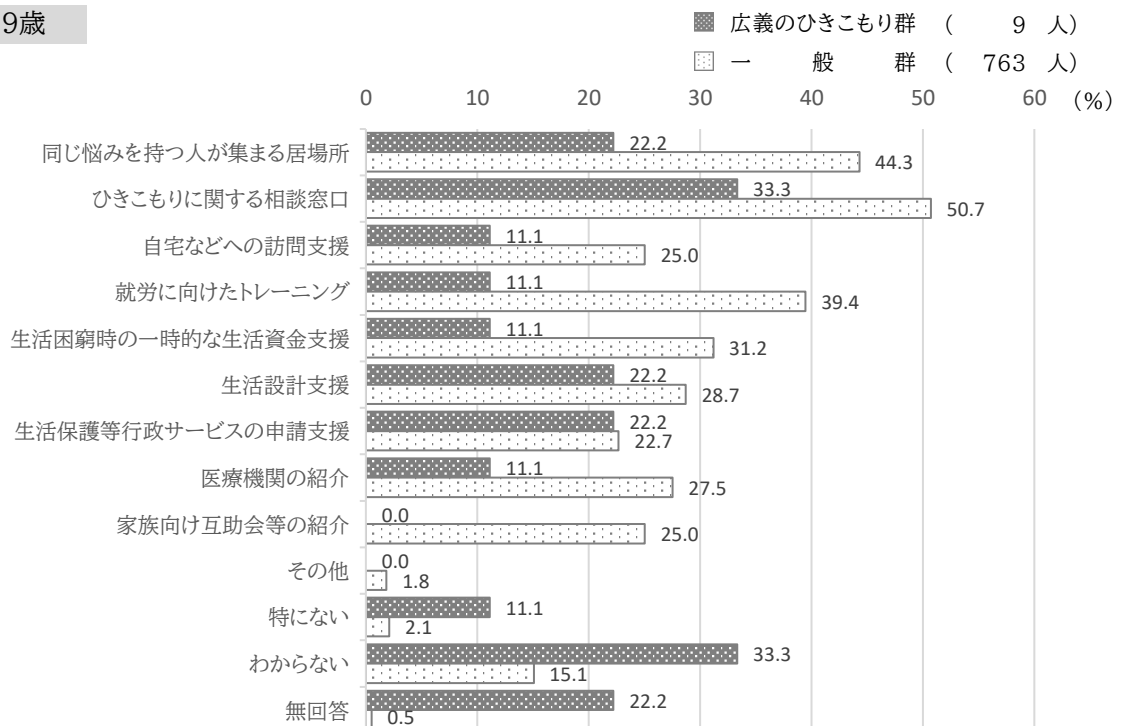
Q21 ひきこもり状態にあることで悩む方々やご家族に対して、どのような支援等があると良いと思いますか。
(〇はいくつでも)

15歳～39歳



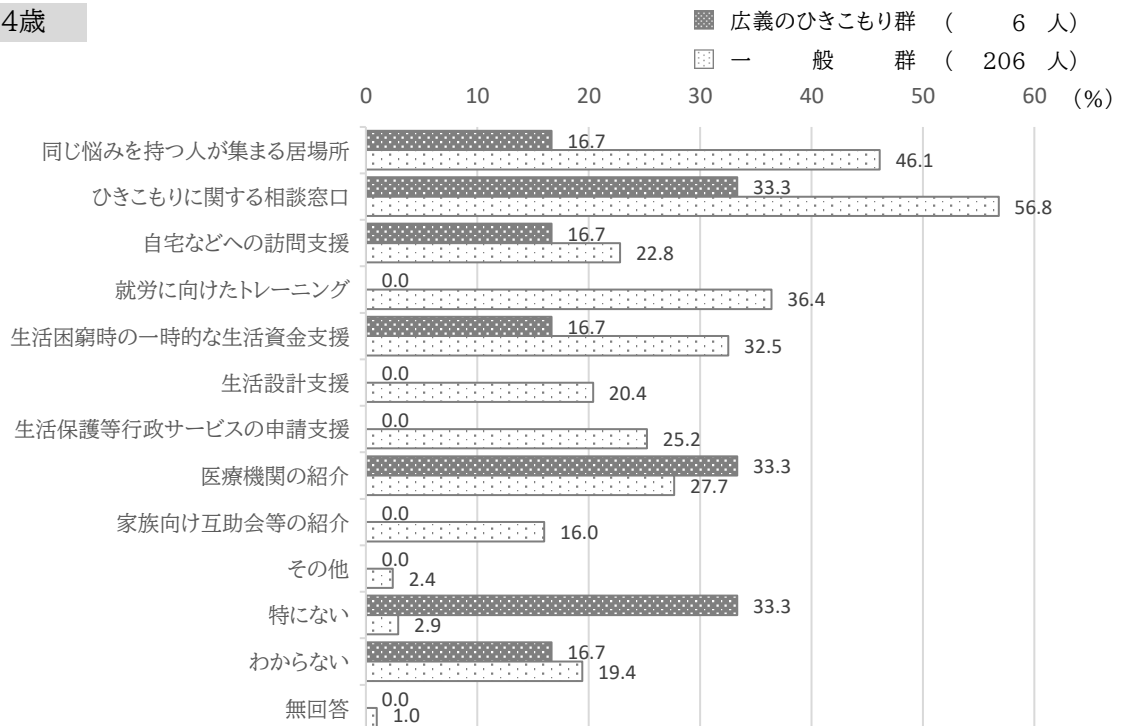
ひきこもり状態にあることで悩む方々やご家族に対する支援については、広義のひきこもり群では、「就労に向けたトレーニング」、「生活設計支援」及び「わからない」が30.8%で多い傾向がみられた。

40歳～59歳



ひきこもり状態にあることで悩む方々やご家族に対する支援については、広義のひきこもり群では、「ひきこもりに関する相談窓口」及び「わからない」が33.3%で多い傾向がみられた。

60歳～64歳



ひきこもり状態にあることで悩む方々やご家族に対する支援については、広義のひきこもり群では、「ひきこもりに関する相談窓口」、「医療機関の紹介」及び「特にない」が33.3%で多い傾向がみられた。

その他の内容
(抜 粋)

年代	内容
すべて	カウンセラーの紹介、学校のカウンセラー(3件) 立場によって、本人・家族の悩みが違うので、聞いてくれる場所がどこか分かれば相談できる。まず窓口がわからない。 就労目的ではなく、自分が必要とされる場で働き報酬をえる体験ができる場 引きこもりの方が在宅でできる仕事を作る。在宅ワーク(2件) 児童・学生の場合学習支援